

平成 28 年 9 月

地域経済動向調査報告書

～平成 28 年度 伴走型小規模事業者支援推進事業～

矢板市商工会

【目次】

I.	矢板市の概要.....	4
I-(1).	矢板市の人口動態.....	4
I-(1)-1.	矢板市の人口の推移	4
I-(1)-2.	矢板市の高齢化率の推移	4
I-(1)-3.	矢板市の年代別人口増減と転入転出状況.....	6
I-(2).	矢板市の経済概要	8
I-(2)-1.	矢板市の地域経済循環状況	8
I-(2)-2.	矢板市の産業別経済循環と生産状況(2010年).....	9
I-(2)-3.	矢板市の産業別就業者の割合(2010年).....	11
I-(2)-4.	矢板市の産業別売上金額の割合(2014年)	11
I-(2)-5.	矢板市の1人あたりの産業別売上金額の割合(2014年).....	13
I-(2)-6.	矢板市の産業別特化係数(製造業).....	14
II.	矢板市の第1次産業.....	15
II-(1).	矢板市の農産物の販売額	15
II-(2).	矢板市の農林水産業.....	16
II-(3).	矢板市の林業.....	17
III.	矢板市の第2次産業.....	18
III-(1).	矢板市の工業動向.....	18

III-(1)-1. 矢板市の工業製品出荷額の推移	18
III-(1)-2. 矢板市の工業従業者の推移.....	18
III-(1)-3. 矢板市の工業粗付加価値額の推移.....	19
III-(1)-4. 矢板市の1人あたりの粗付加価値額の推移.....	19
III-(2). 矢板市の業種別工業動向.....	19
III-(2)-1. 矢板市の工業製造品出荷額等の推移	20
III-(2)-2. 矢板市の工業従業員の推移.....	22
III-(2)-3. 矢板市の工業従業員1人あたりの現金給与支給額の推移.....	24
III-(2)-4. 矢板市の工業粗付加価値額の推移.....	26
III-(2)-5. 矢板市の1あたりの工業粗付加価値額の推移.....	28
IV. 矢板市の第3次産業等.....	30
IV-(1). 矢板市の商業動向	30
IV-(1)-1. 矢板市の年間商業販売額の推移.....	30
IV-(1)-2. 矢板市の卸売業と小売業の割合.....	30
IV-(1)-3. 矢板市の商業従業者数の推移	31
IV-(1)-4. ①矢板市の商業従業者一人当たり年間商品販売額の推移.....	31
IV-(2). 矢板市のその他の指標.....	32
IV-(2)-1. 矢板市の創業比率と黒字赤字企業比率.....	32
V. Appendix(栃木県の情報)	34
V-(1). 栃木県全体の情報.....	34

V-(1)-1. 矢板市のその他の指標.....	34
V-(1)-2. 栃木の県民所得.....	35
V-(1)-3. 栃木の経済状況.....	37
V-(1)-4. 栃木の市長村民経済計算	40

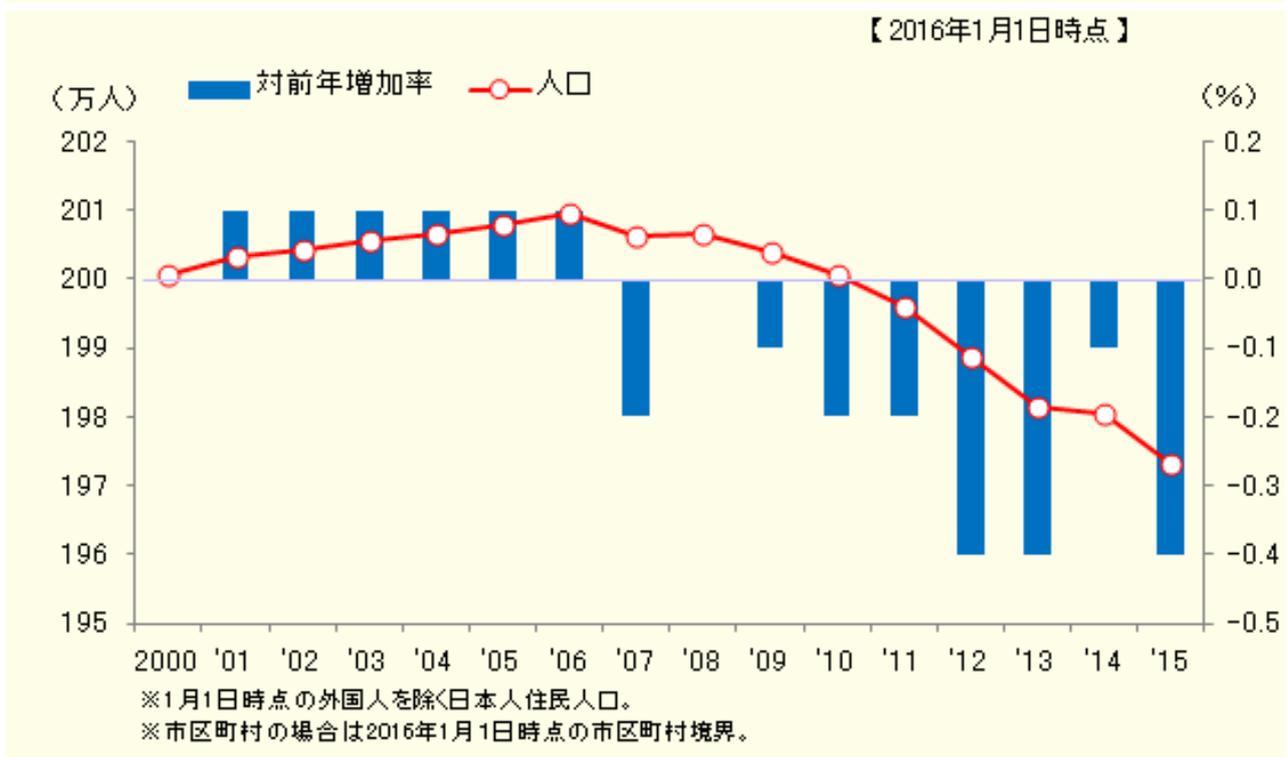
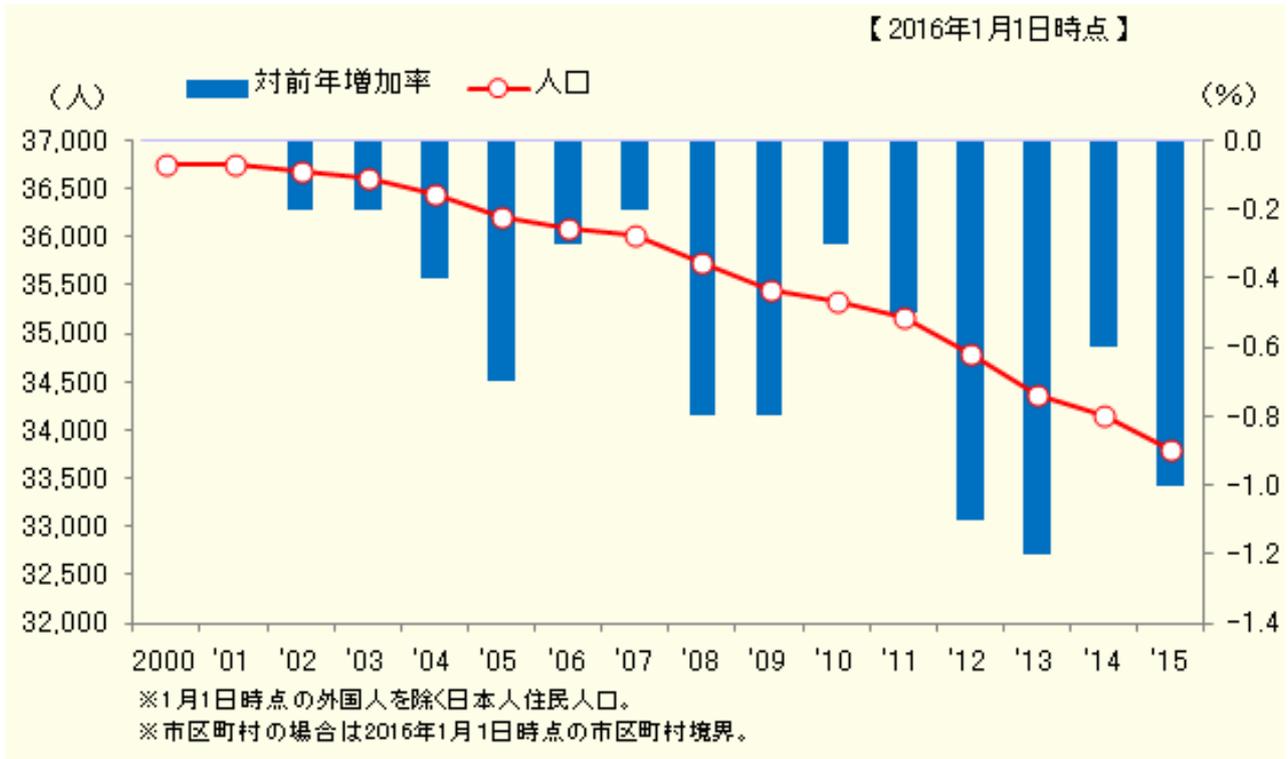
I. 矢板市の概要

I-(1). 矢板市の人口動態

I-(1)-1. 矢板市の人口の推移

- ・矢板市の 2016 年 1 月 1 日時点の人口は、33,584 人であり、前年より 1.0%減少している。栃木県は 0.4%減のため、県の平均よりも人口が減少していることがわかる。
- ・特にこの 10 年間は、人口の減少幅も徐々に拡大している。

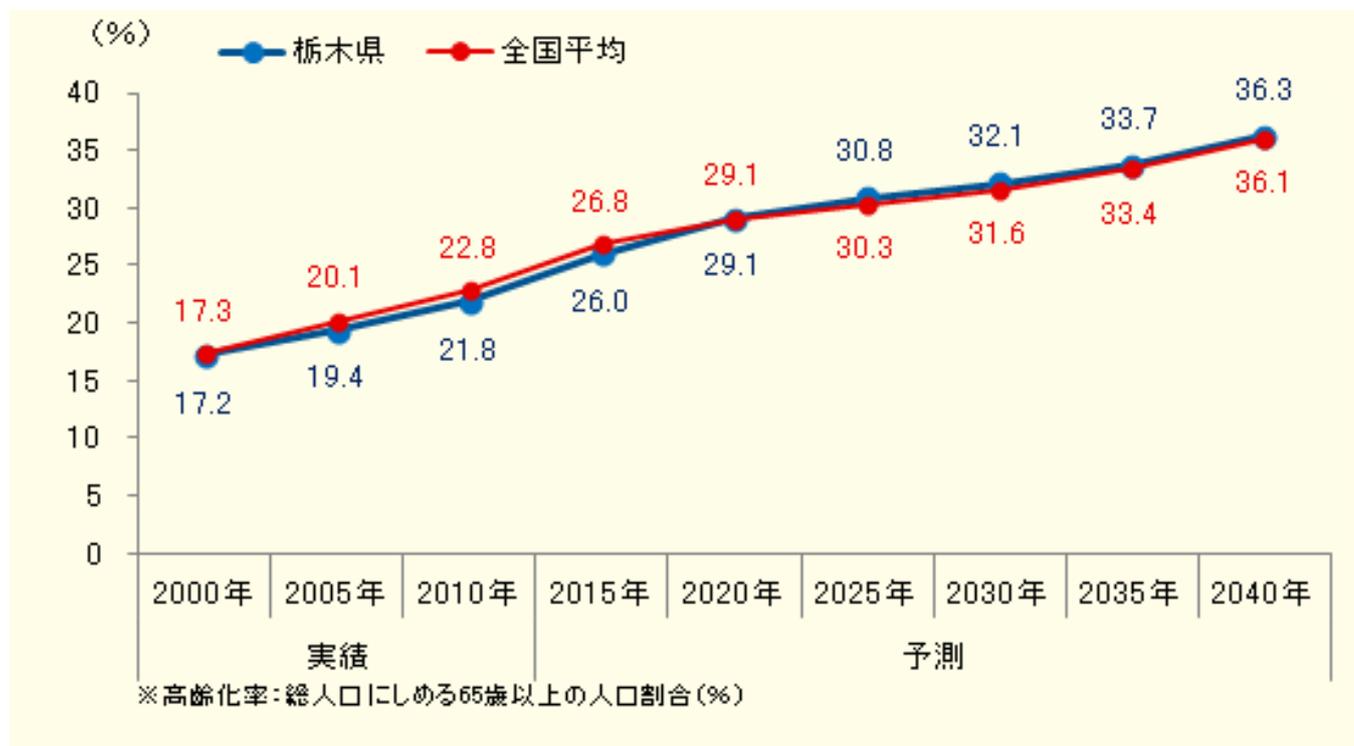
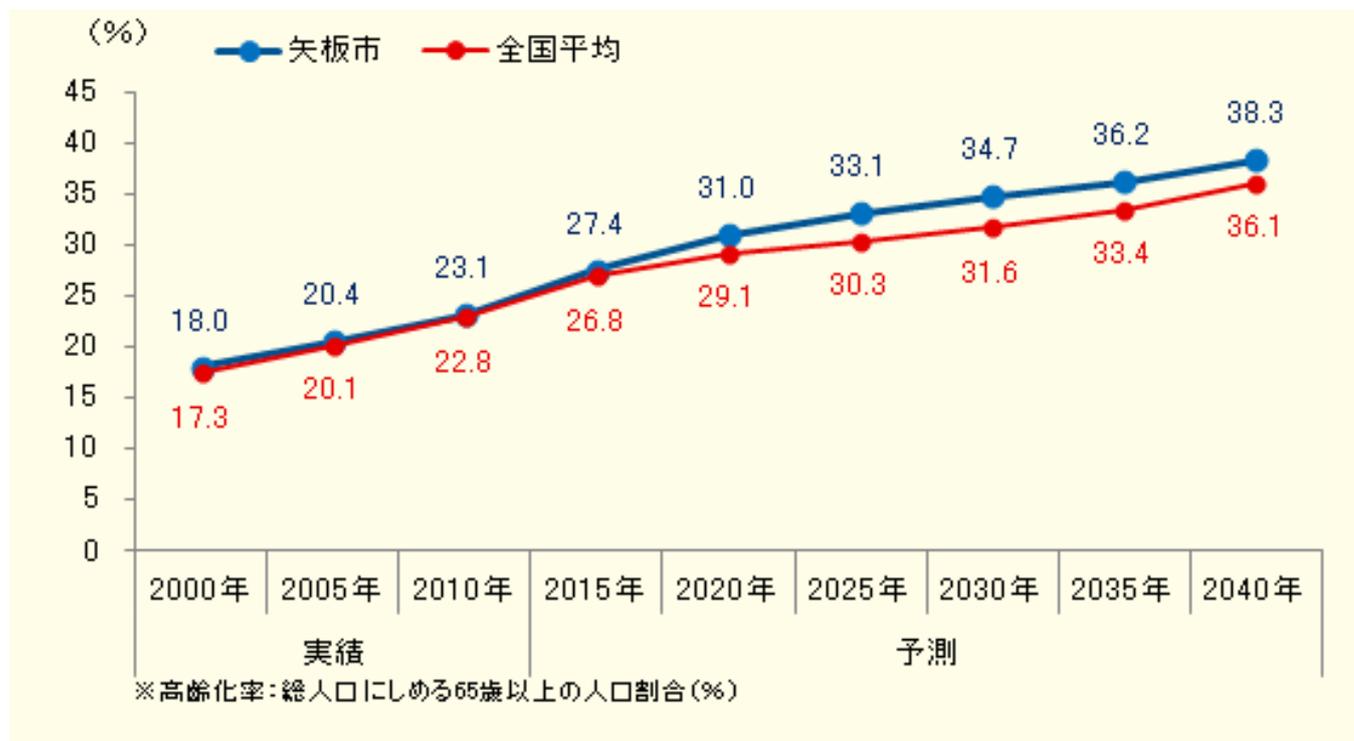
図表：矢板市[上]と栃木県[下]の人口の推移対比



I-(1)-2. 矢板市の高齢化率の推移

- ・矢板市の2010年度の高齢化率(65歳以上の割合)は23.1%で、全国の平均より少し高かった。栃木県全体の高齢化率は21.8%のため、県内平均よりも高齢化が進んでいる。
- ・このまま高齢化が進んだ場合、2040年には38.3%まで上昇し、3人に1人以上が高齢者になると見込まれる。

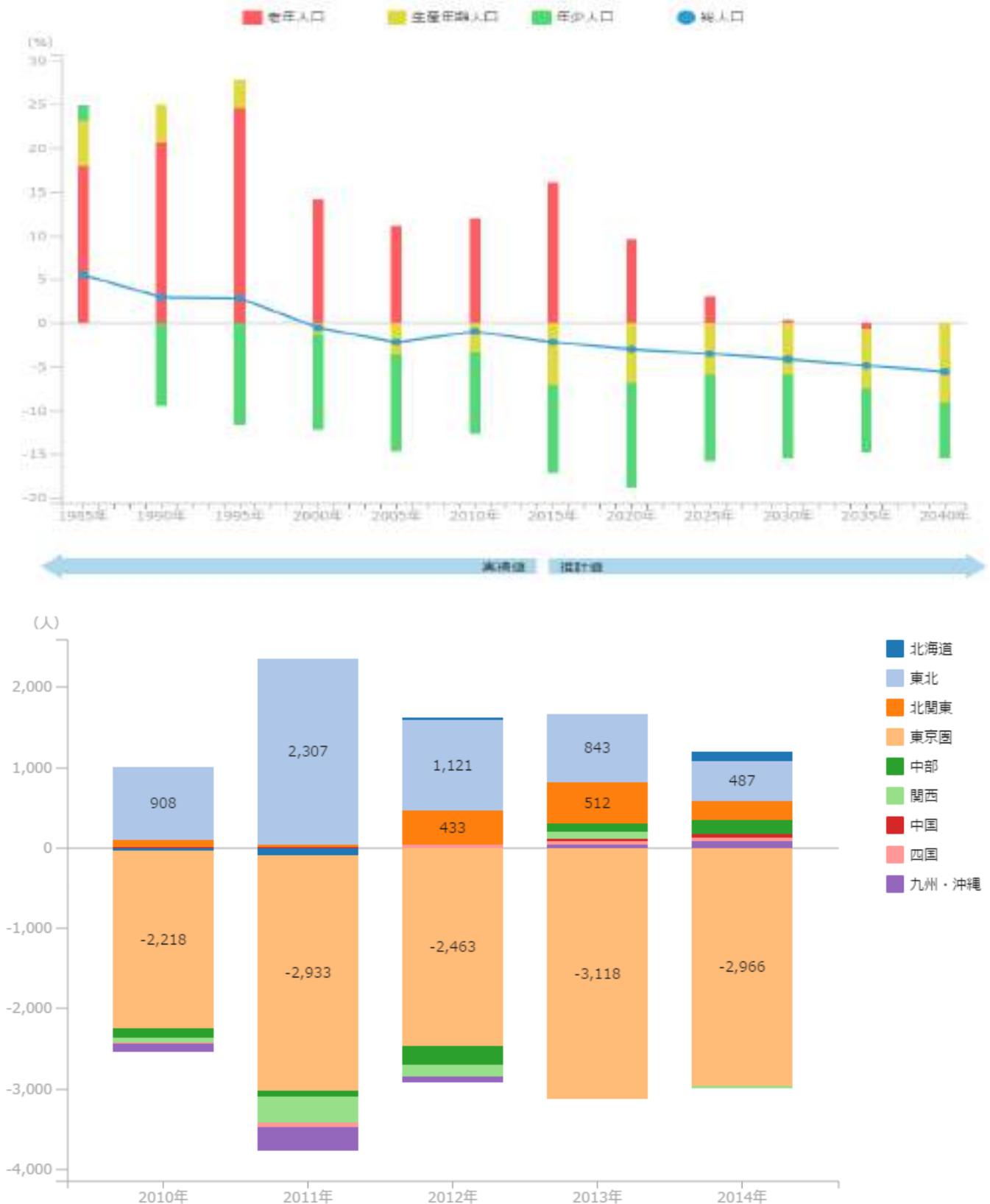
図表：矢板市[上]と栃木県[下]の高齢化率の推移対比



I-(1)-3. 矢板市の年代別人口増減と転入転出状況

- ・2000年から生産年齢の人口の減少が始まり、減少幅は拡大し続けている。いっぽう、老年人口は増え続けている。さらに、2020年からは、老年人口の増加率も減少に転じるため、人口全体の減少率が増加していく。
- ・栃木県全体は、転入より転出、特に東京圏への転出が多い。また近年の傾向として、北関東からの転入が増えてきた。

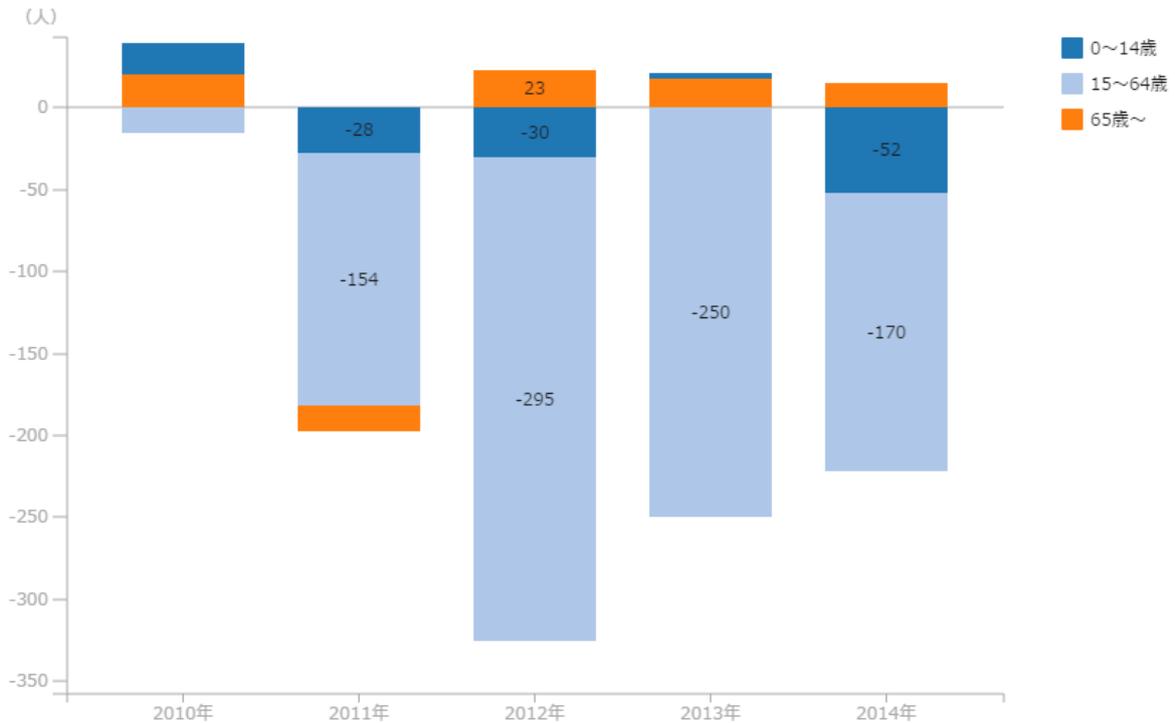
図表：人口増減[上]/ 地域ブロック別純移動数[下]



出典：経済産業省/内閣官房『RESAS』より筆者抜粋

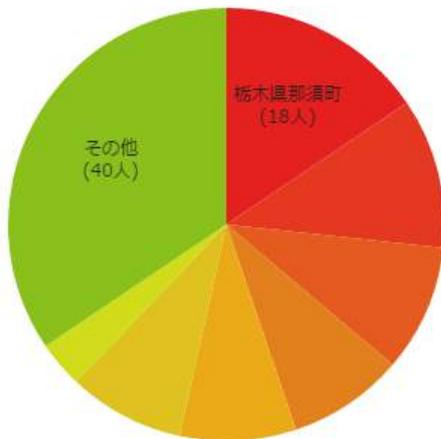
- ・2011 年以降、矢板市は転入より転出が多い状況が続いている。特に、15-64 歳の生産年齢層の転出が際立って増えている。いっぽうで、65 歳以上の転入が増えてきている。
- ・那須町や塩谷町、高根沢町からの転入が多いいっぽうで、宇都宮市やさくら市、郡山市への転出が多い。

図表：矢板市の年齢階級別純移動数[上] / 矢板市の From-to 分析(2014 年)[下]



転入超過数内訳

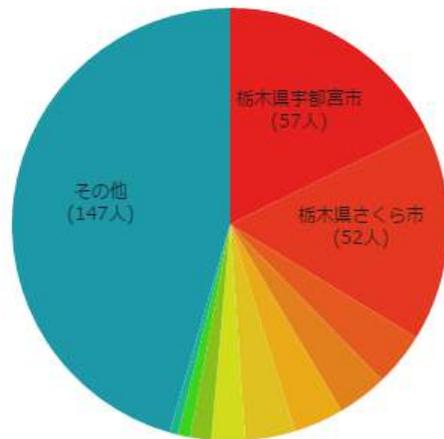
総数



- 1位 栃木県那須町 18人 (15.5%)
- 2位 栃木県塩谷町 13人 (11.2%)
- 3位 栃木県高根沢町 11人 (9.5%)
- 4位 栃木県那珂川町 10人 (8.6%)
- 5位 栃木県那須烏山市 10人 (8.6%)
- 6位 栃木県真岡市 10人 (8.6%)
- 7位 栃木県那須塩原市 4人 (3.4%)
- 8位 その他 40人 (34.5%)

転出超過数内訳

総数



- 1位 栃木県宇都宮市 57人 (17.6%)
- 2位 栃木県さくら市 52人 (16.1%)
- 3位 福島県郡山市 13人 (4%)
- 4位 東京都世田谷区 12人 (3.7%)
- 5位 栃木県鹿沼市 12人 (3.7%)
- 6位 栃木県佐野市 12人 (3.7%)
- 7位 栃木県大田原市 8人 (2.5%)
- 8位 栃木県日光市 5人 (1.5%)
- 9位 栃木県壬生町 3人 (0.9%)
- 10位 栃木県小山市 2人 (0.6%)

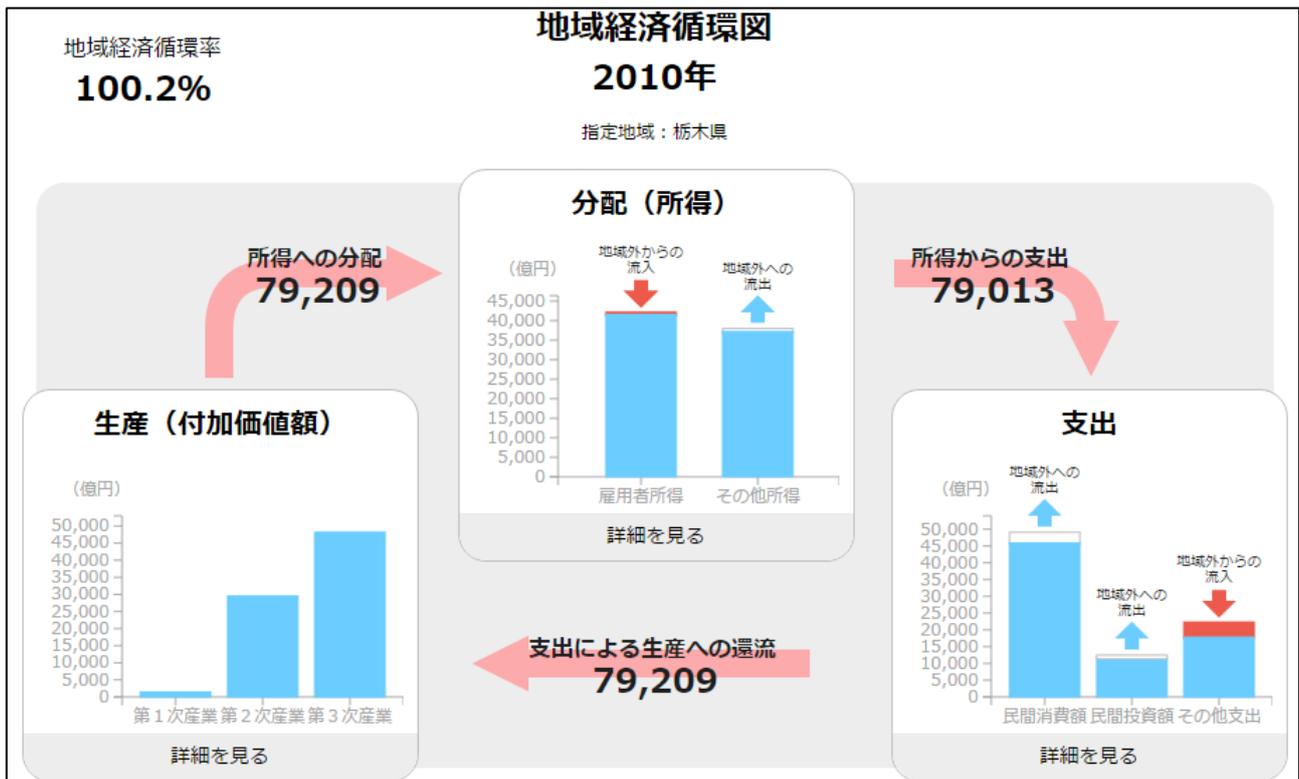
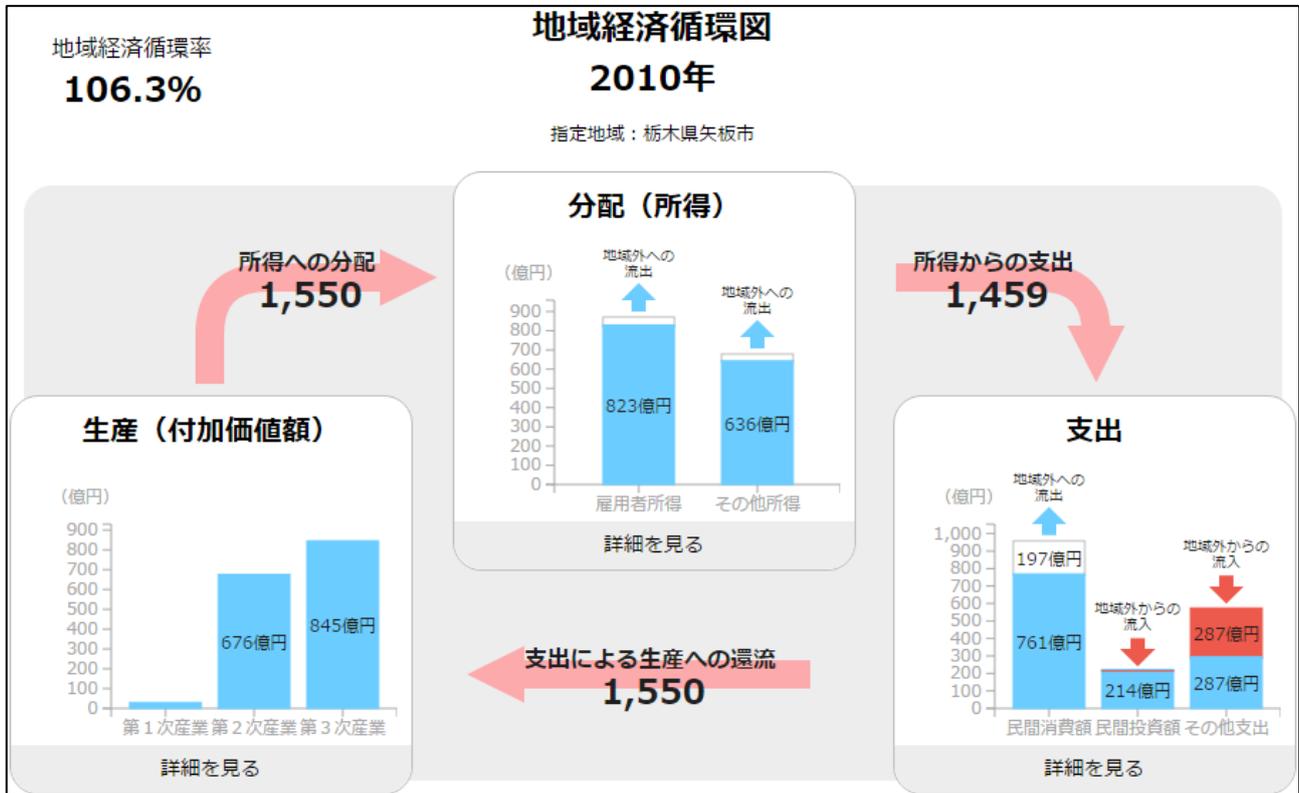
出典：経済産業省/内閣官房『RESAS』より筆者抜粋

I-(2).矢板市の経済概要

I-(2)-1.矢板市の地域経済循環状況

・生産（付加価値額）を分配（所得）で除した地域経済循環率は、地域経済の自立度を示しており、値が低いほど他地域から流入する所得に対する依存度が高い。矢板市の地域経済循環率は 106.3%と、栃木県全体の 100.2%よりも高い。なお、隣接している群馬県全体では 98%、茨城県全体では 99%である。

図表：矢板市[上]と栃木県[下]の地域経済循環図比較



I-(2)-2. 矢板市の産業別経済循環と生産状況(2010年)

- ・矢板市は栃木県の平均に比べ、一人あたりが生み出す付加価値額が高い。特に、2次産業と3次産業はそれぞれ99万円、131万円も高い。
- ・雇用者所得も栃木県の平均より高いが、民間消費の支出流出率はマイナス20.6%となっている。

付加価値額（一人当たり）

	第1次産業	第2次産業	第3次産業
矢板市：付加価値額（一人当たり）	257万円	1,061万円	936万円
栃木県：付加価値額（一人当たり）	255万円	962万円	805万円

所得（一人当たり）

	雇用者所得	その他所得
矢板市：所得（一人当たり）	476万円	180万円
栃木県：所得（一人当たり）	432万円	183万円

支出流出率

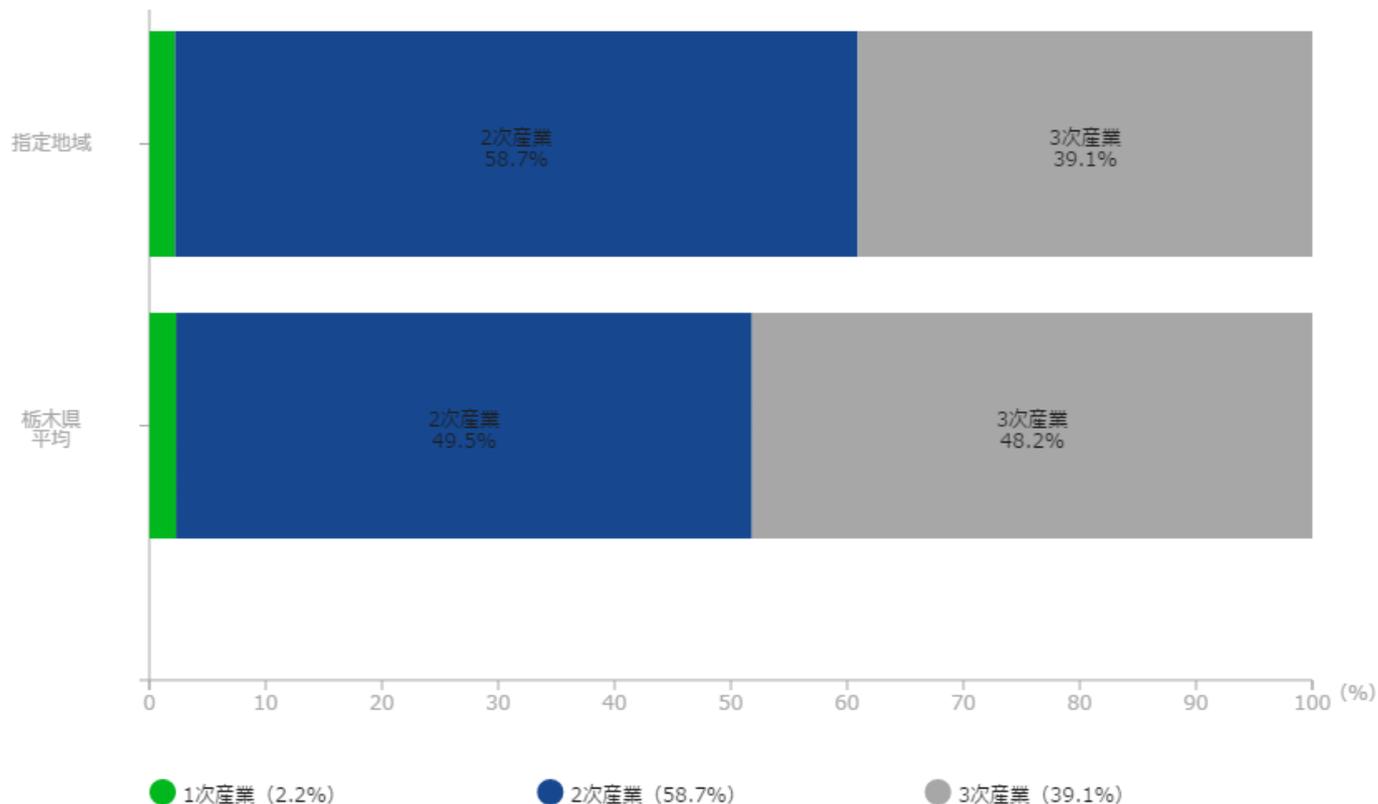
	民間消費	民間投資	その他支出
矢板市：支出流出率	-20.6%	0.5%	100.2%
栃木県：支出流出率	-7.3%	-9.2%	28.2%

出典：経済産業省/内閣官房『RESAS』より筆者作成

■ 産業別生産額の対比

- ・矢板市は栃木県の平均と比べ、2次産業の生産額の割合が高くなっている。

図表：産業構成の割合：生産額（総額）

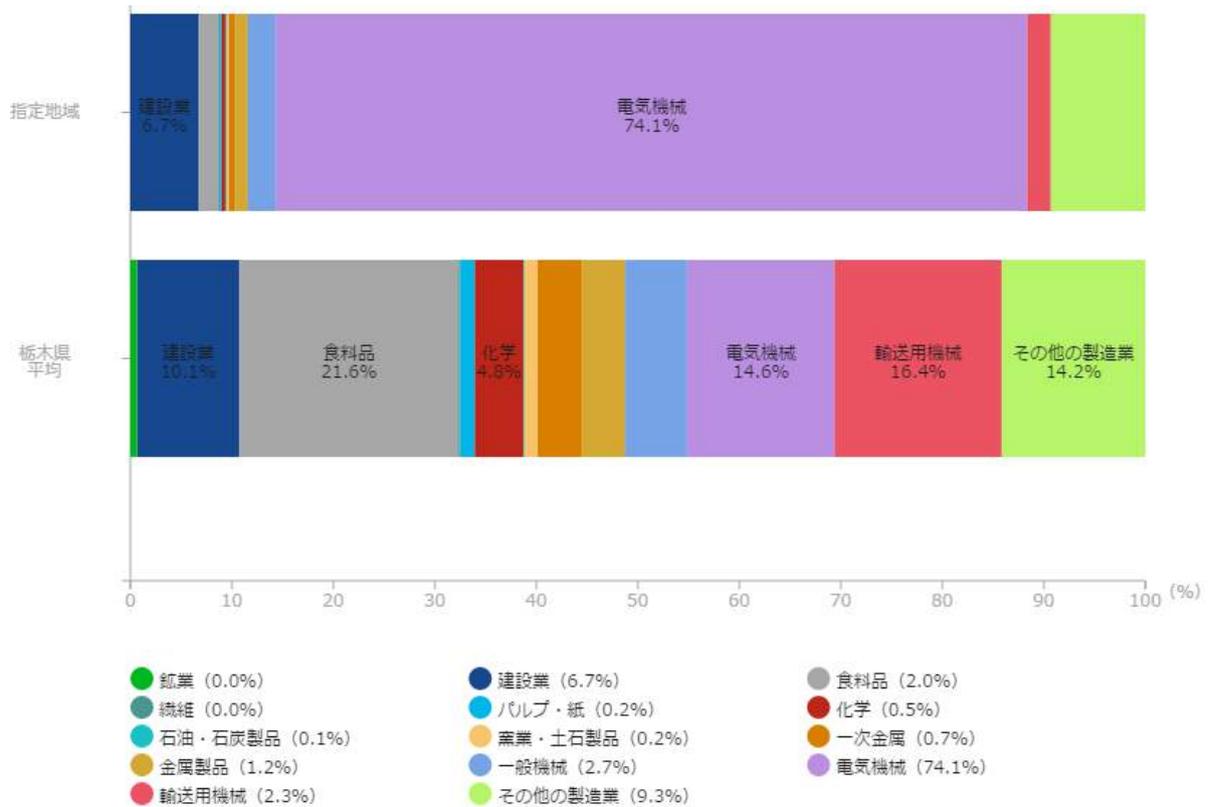


出典：経済産業省/内閣官房『RESAS』より筆者抜粋

■ 2次産業と3次産業内の生産額の割合

・2次産業の生産額の殆どが電気機械(74.1%)によるものである。

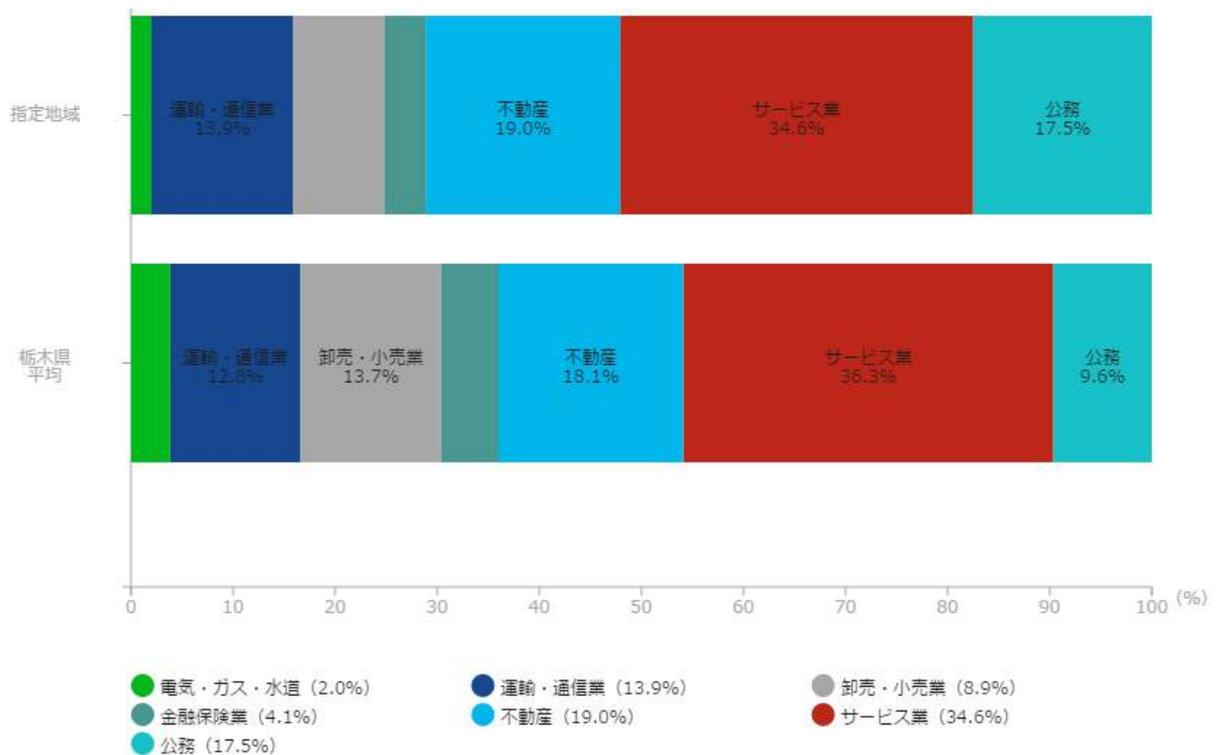
図表：2次産業の生産額の割合



出典：経済産業省/内閣官房『RESAS』より筆者抜粋

・3次産業では県平均に比べて卸・小売業の生産額の割合が低く、公務による生産割合が高くなっている。

図表：3次産業の割合

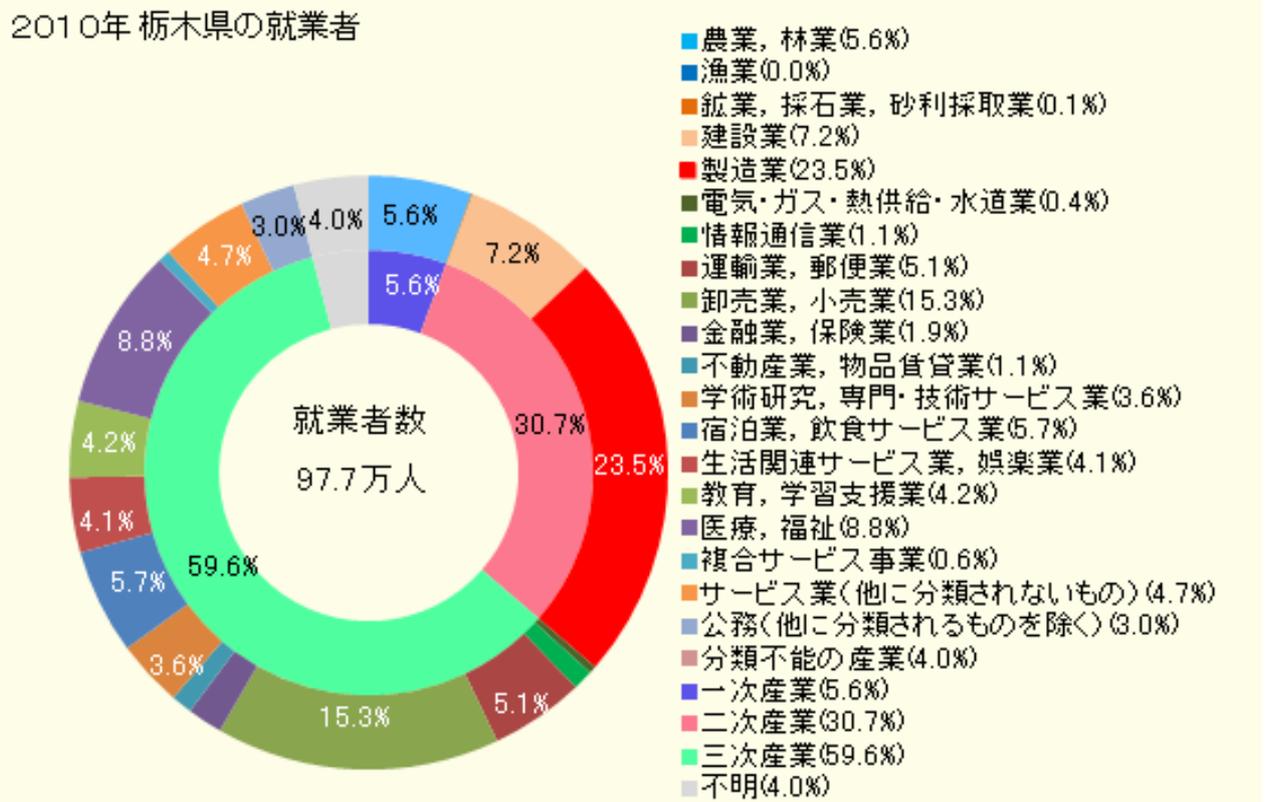
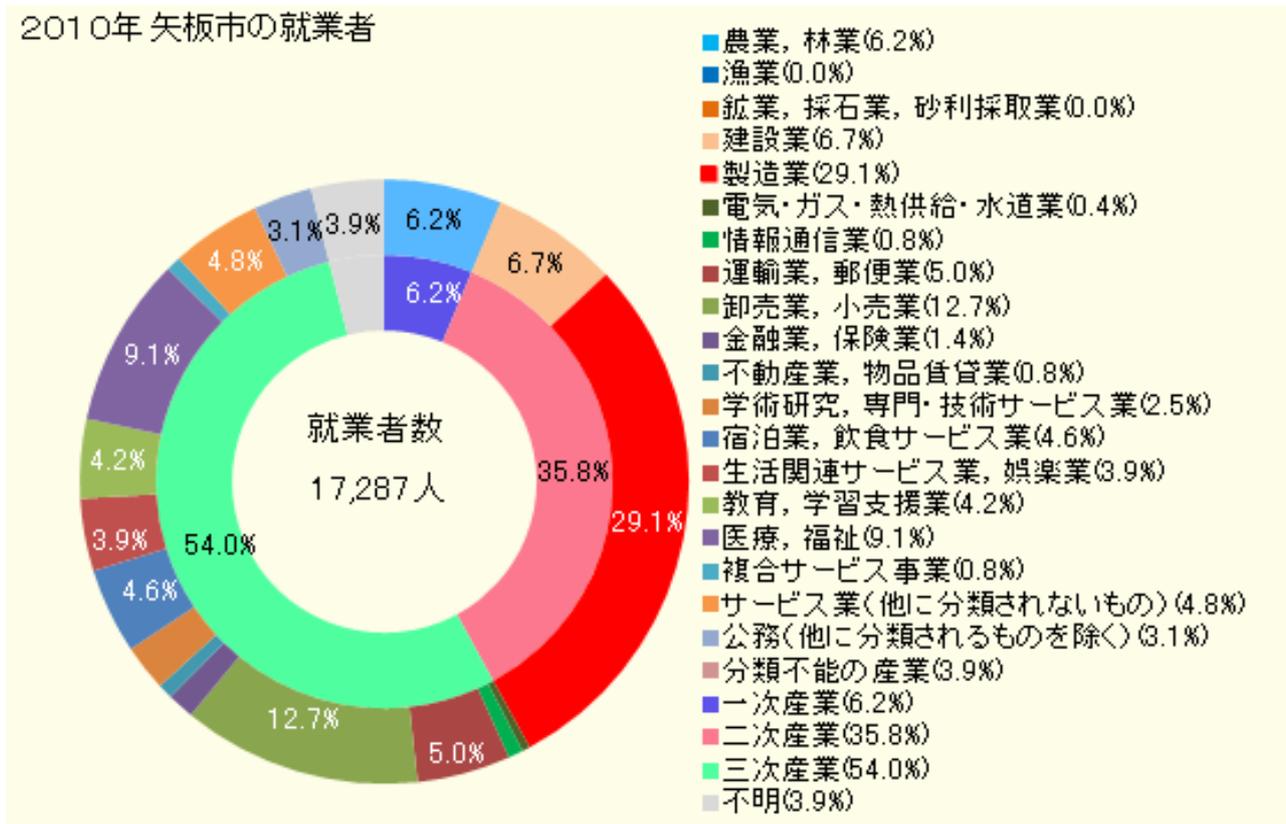


出典：経済産業省/内閣官房『RESAS』より筆者抜粋

I-(2)-3.矢板市の産業別就業者の割合(2010年)

- ・矢板市は栃木県全体に比べて、2次産業の就業者の割合が5.1%高く、3次産業の就業者の割合は5.6%低くなっており、上記生産額の分析内容と比例していることが分かる
- ・2次産業では、製造業の従業者が最も多く(29.1%)、3次産業では卸・小売業が最も多い(12.7%)。

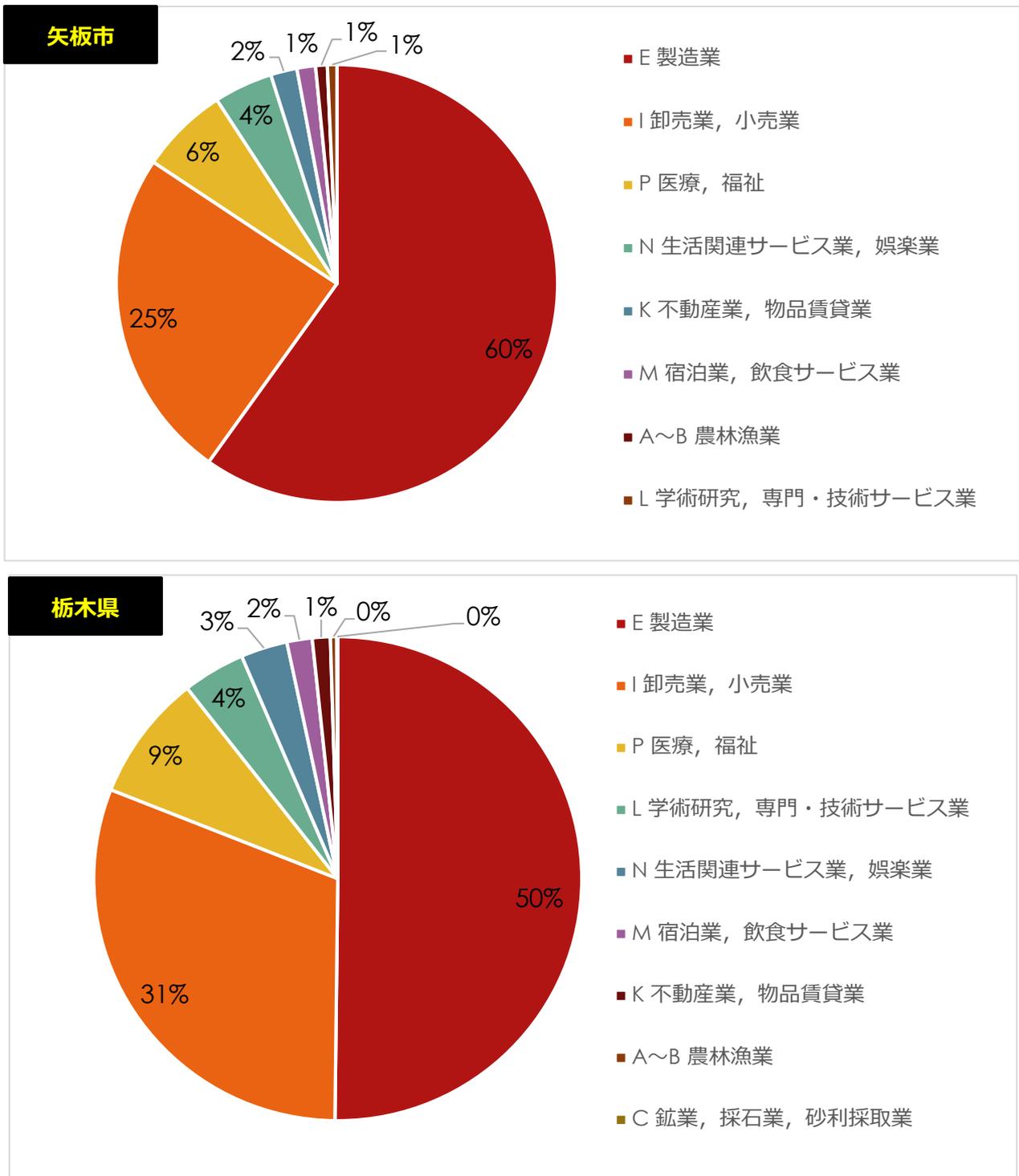
図表：矢板市[上]と栃木県[下]の産業/業種別就業者の割合



I-(2)-4. 矢板市の産業別売上金額の割合(2014年)

- ・2014年、矢板市で最も売上を上げたのは製造業で、全体の6割の売上を占めている。その次には卸売業・小売業が続いており、この2産業で矢板市の売上の85%を占めていることになる。
- ・学術研究、専門・技術サービス業の売上額の割合が、栃木県平均と比べ、若干低い。

図表：矢板市[上]と栃木県[下]の産業（大分類）ごとの売上金額割合



出典：総務省『経済センサス-基礎調査_平成26年』より筆者作成

※D 建設業 F 電気・ガス・熱供給・水道業 G 情報通信業 H 運輸業, 郵便業 J 金融業, 保険業 O 教育, 学習支援業 Q 複合サービス事業 R サービス業（他に分類されないもの）は必要な数値の統計が存在しないため対象外

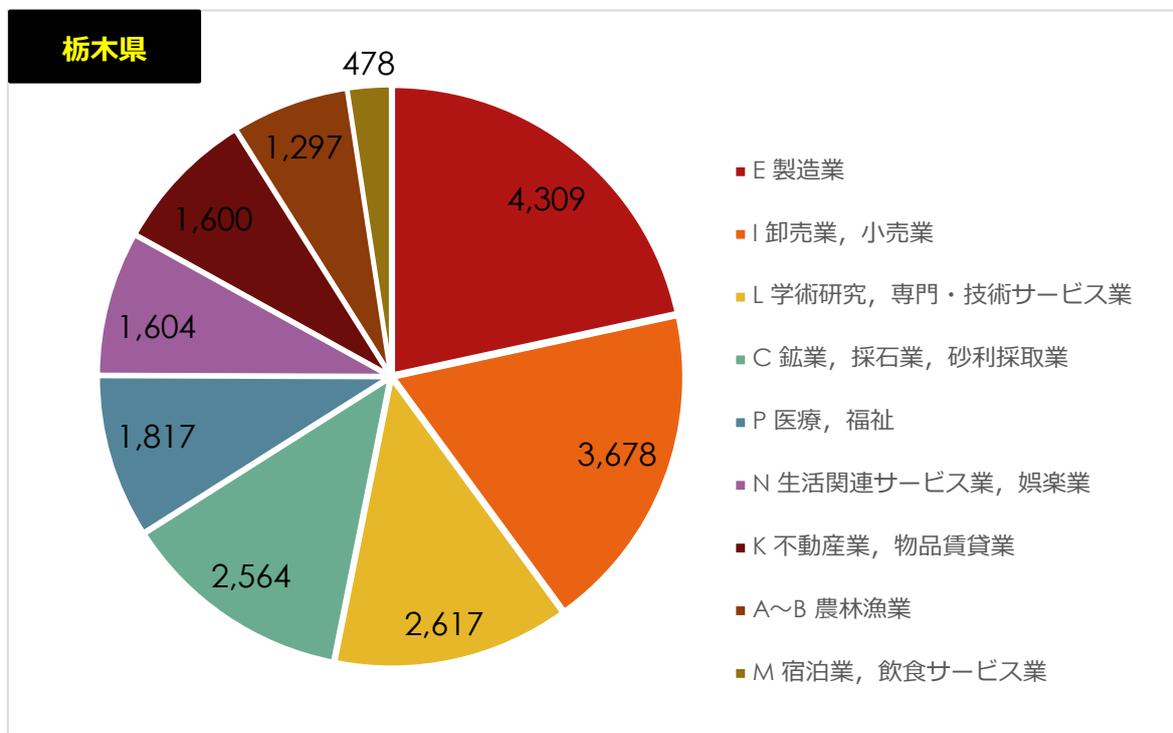
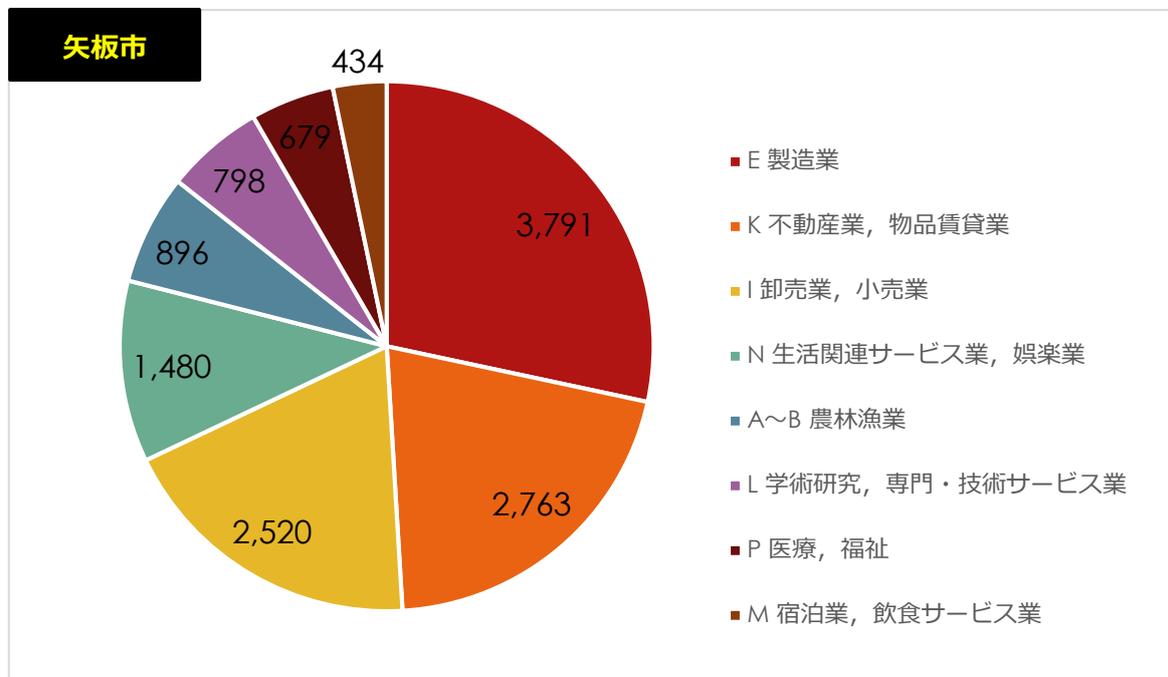
I-(2)-5.矢板市の1人あたりの産業別売上金額の割合(2014年)

・2014年、矢板市で最も一人当たりの売上高が高かった産業は、製造業(3,791万円)であった。しかし、栃木県の製造業の平均(4,309万円)と比べた場合、500万円強の差があるため、今後の課題に挙げられる。

・いっぽう2位は不動産業、物品賃貸業(2,763万円)で、こちらは栃木県の平均(1,600万円)を大幅に上回っている。

図表：矢板市[上]と栃木県[下]の産業（大分類）ごとの従業者1人あたり売上割合

単位：万円



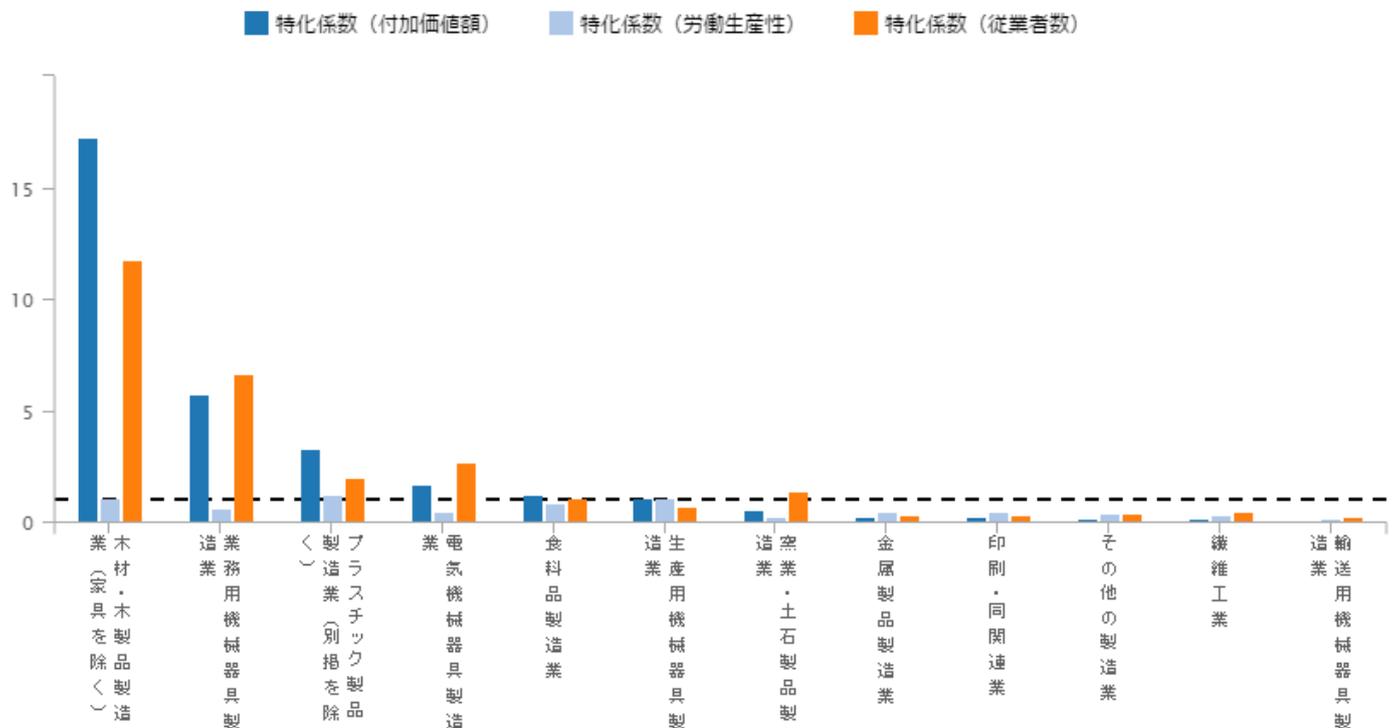
出典：総務省『経済センサス-基礎調査_平成 26 年』より筆者作成

※D 建設業 F 電気・ガス・熱供給・水道業 G 情報通信業 H 運輸業, 郵便業 J 金融業, 保険業 O 教育, 学習支援業 Q 複合サービス事業 R サービス業（他に分類されないもの）は必要な数値の統計が存在しないため対象外

I-(2)-6. 矢板市の産業別特化係数(製造業)

- ・付加価値額と従業者数の特化係数については、木材・木製品製造業業務用機械器具製造業プラスチック製品製造業電気機械器具製造業の4つが、全国平均に比べて上回っている。
- ・いっぽうで、労働生産性はプラスチック製品製造業以外すべての業種で全国より下回っている。

図表：矢板市の産業別特化係数



出典：経済産業省/内閣官房『RESAS』より筆者抜粋

※特化係数：域内のある産業の比率を全国と同産業の比率と比較したもの。1.0 を超えていれば、当該産業が全国に比べて特化している産業とされる。労働生産性の場合、全国の当該産業の数値を1としたときの、ある地域の当該産業の数値。

※労働生産性 = 付加価値額 (企業単位) ÷ 従業者数 (企業単位)

以降は

Ⅱ.第1次産業

Ⅲ.第2次産業

Ⅳ.第3次産業

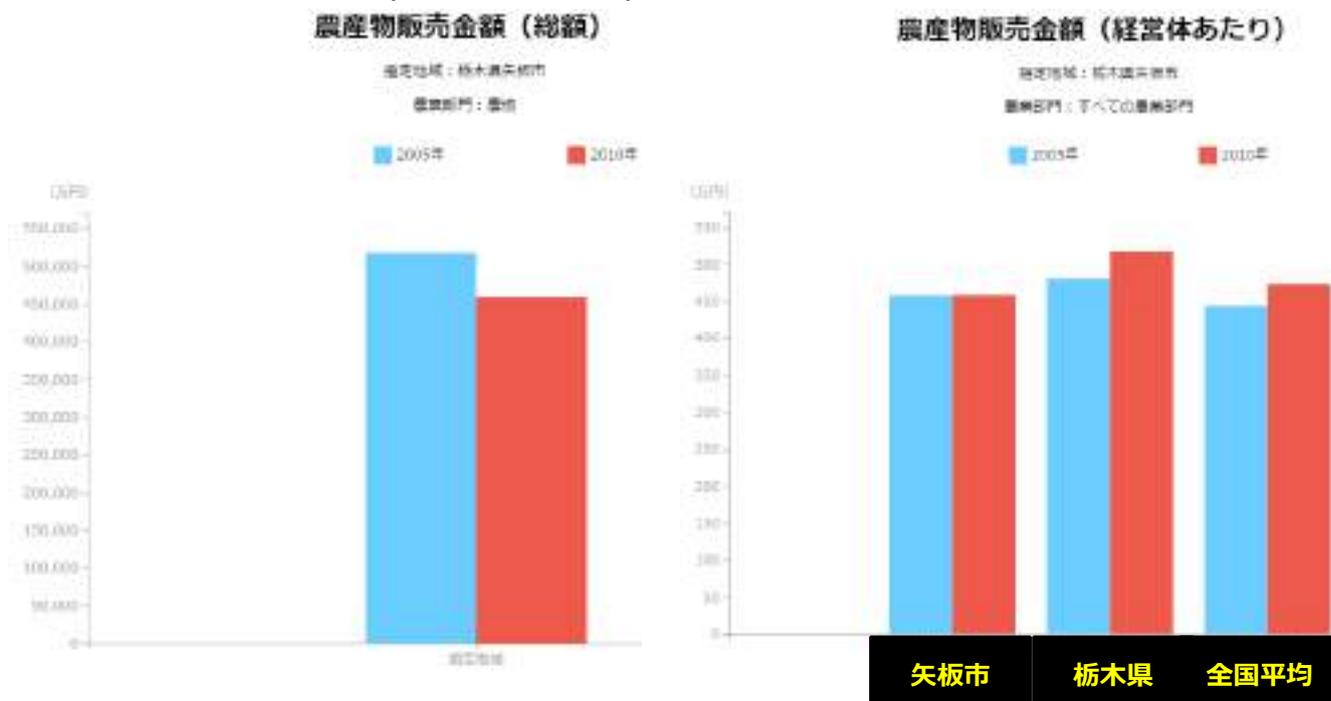
の順に矢板市の現状を確認していく

II. 矢板市の第1次産業

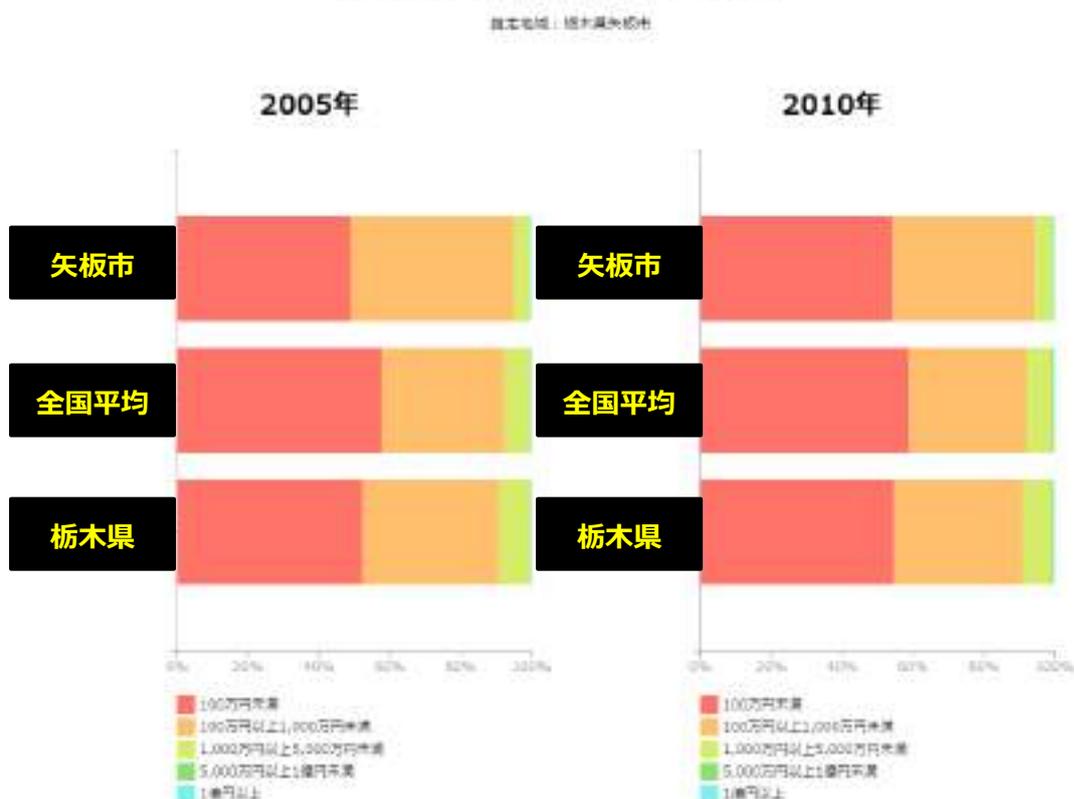
II-(1). 矢板市の農産物の販売額

- ・2010年(460,375万円)の農産物の販売総額は、2005年(518,275万円)と比べ、12%ほど減少した。経営体当たりの販売金額は横ばいだが、同様に従業者数が減っている栃木県および全国平均は、販売金額が上昇している。
- ・販売金額100～1,000万円の小規模事業者の割合が、45.76%から39.99%に減少している。

図表：矢板市の農産物の販売金額(総額、経営体当たり)と農産物金額帯別の経営体の割合



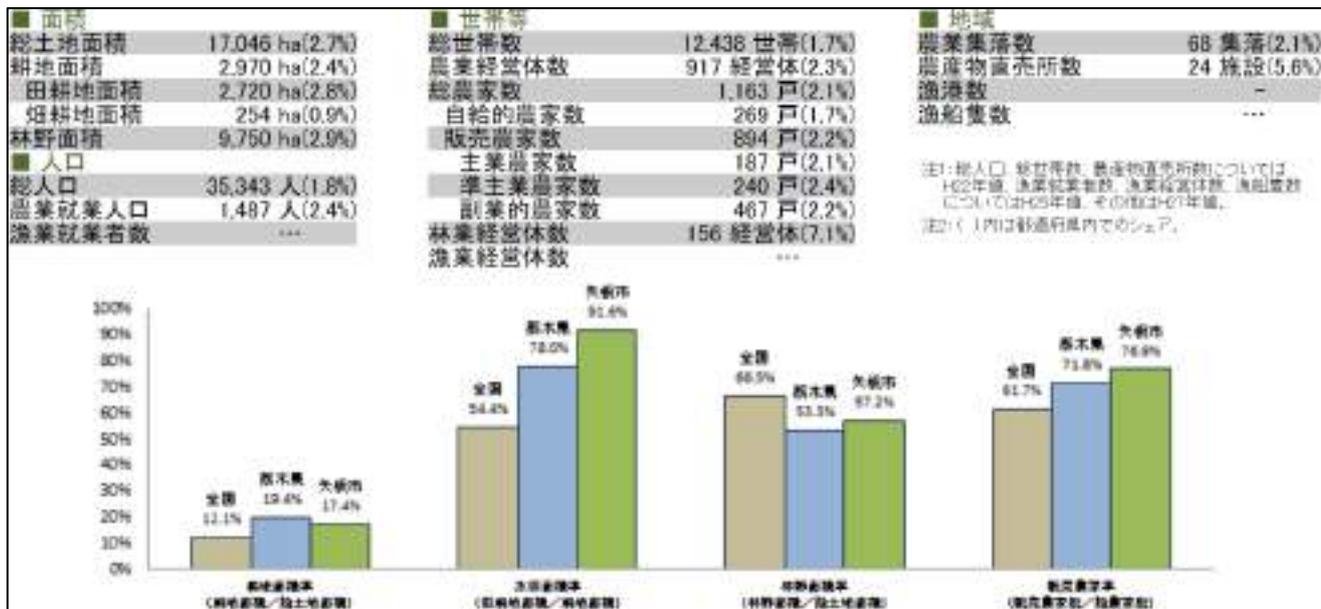
農産物販売金額帯別の経営体の割合



II-(2).矢板市の農林水産業

- ・耕地面積のうち、水田が占める割合が91.6%であり、これは全国や栃木県と比べて非常に高い。
- ・林業経営体数のシェアが県内の7.1%を占めており、相対的に林業が盛んともいえる。

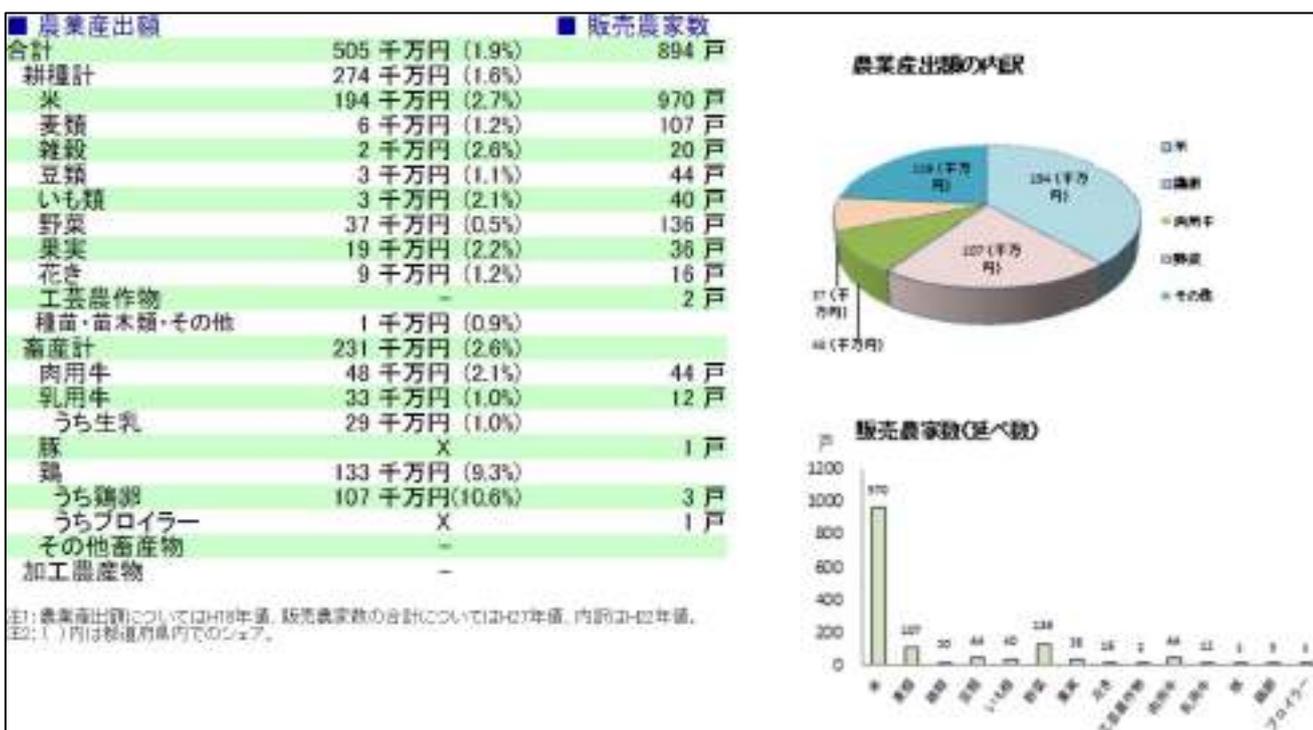
図表：矢板市の農林水産業の基本指標



出典：農林水産省『わがマチ・わがムラ』より筆者抜粋

- ・販売農家数も米が970戸であり、2位の野菜でも136戸である。いっぽうで、産出額では計4戸の鶏業者の、約2倍に留まっている。野菜や果実と比べても、米農家の戸数あたりの産出額の低さが課題として指摘され得る。

図表：矢板市の農業部門別の産出額・販売農家数

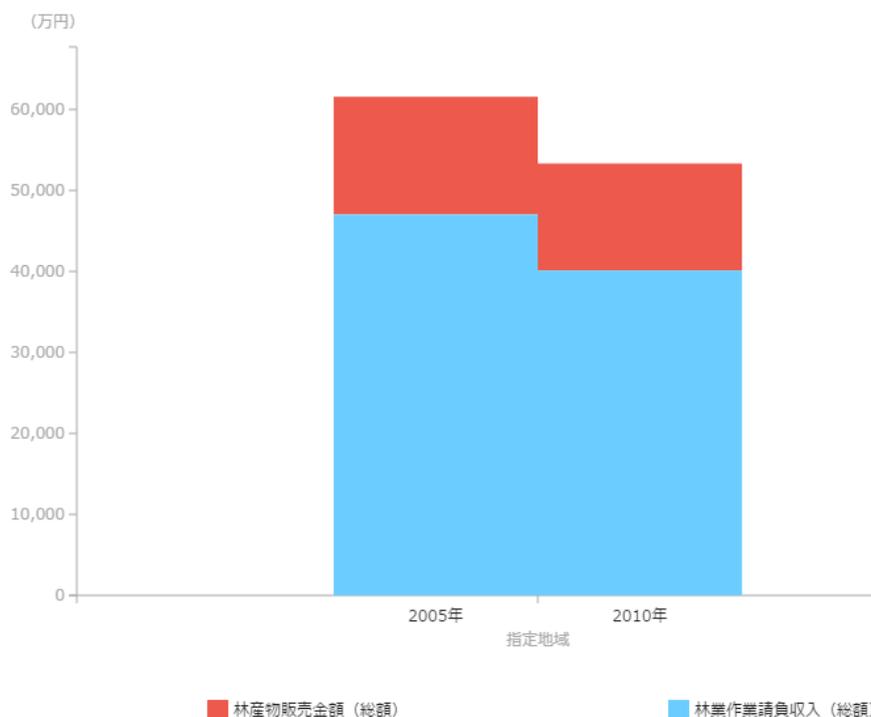


出典：農林水産省『わがマチ・わがムラ』より筆者抜粋

II-(3).矢板市の林業

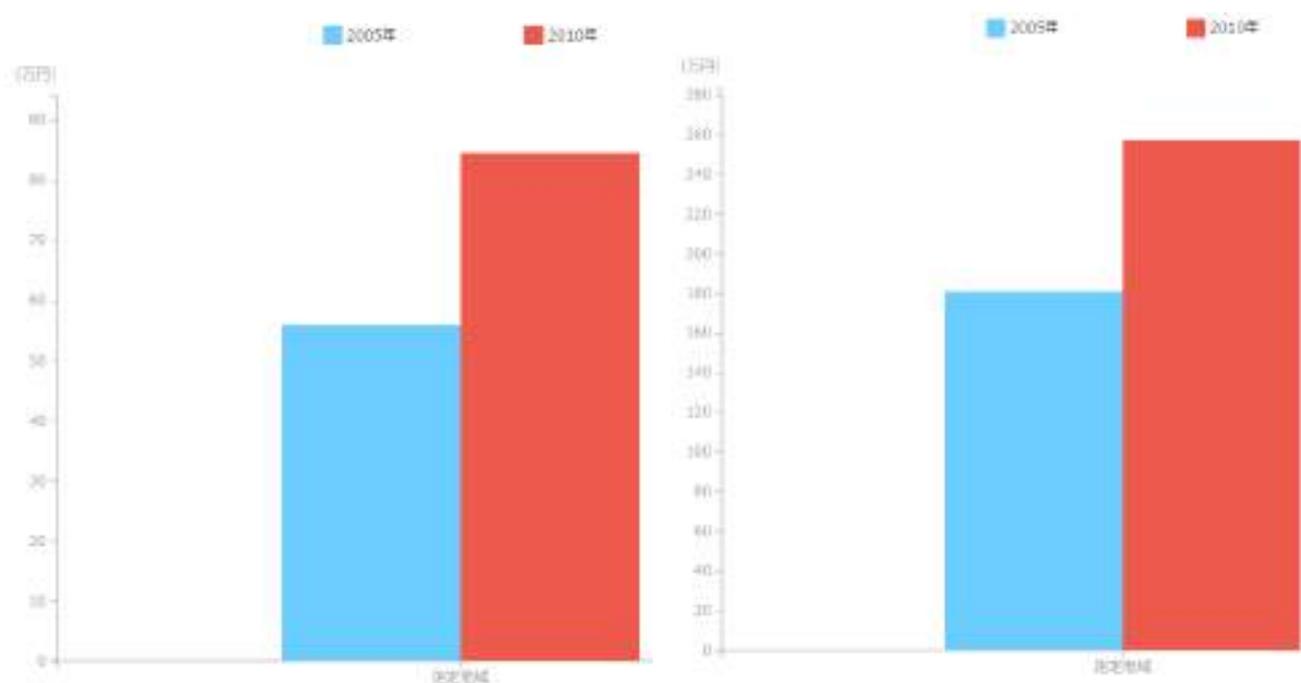
2005年から2010年にかけて、林産物販売額は14,550万円から13,200万円(10.2%減)、作業請負収入は47,025万円から40,125万円(17.1%減)となっている。しかし、経営体あたりの販売金額は、物販は51.7%増、作業請負は41.9%増と大幅に伸長しており、各経営体の経営努力が実を結んでいるといえる。

図表：林業総収入（総額）



出典：経済産業省/内閣官房『RESAS』より筆者抜粋

図表：矢板市の経営体あたりの林産物販売金額(左)/林業作業請負収入(右)



出典：経済産業省/内閣官房『RESAS』より筆者抜粋

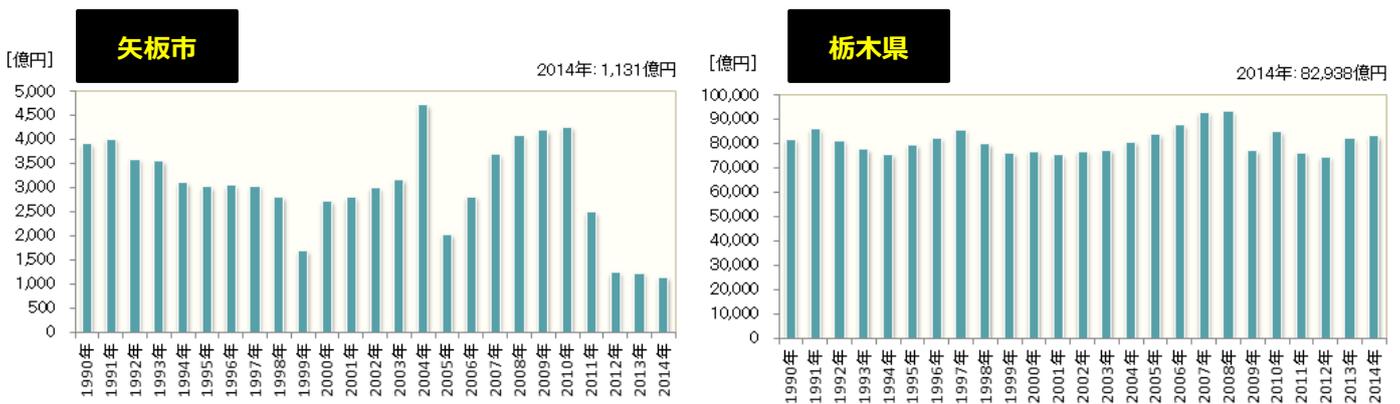
III. 矢板市の第2次産業

III-(1). 矢板市の工業動向

III-(1)-1. 矢板市の工業製品出荷額の推移

・この25年間、栃木県全体がほぼ横ばいで推移しているのに対し、矢板市は3回(1999年、2005年、2011年)ほど急激に出荷額が落ち込んだ年がある。ただ、1999年と2005年の際は、少なくとも2年間で元の水準近くまで持ち直しているが、2011年の場合、2012年には更に出荷額が落ち込み、その後も回復の目処がたっていない。

図表：矢板市[左]と栃木県[右]の工業製造品出荷額等の推移



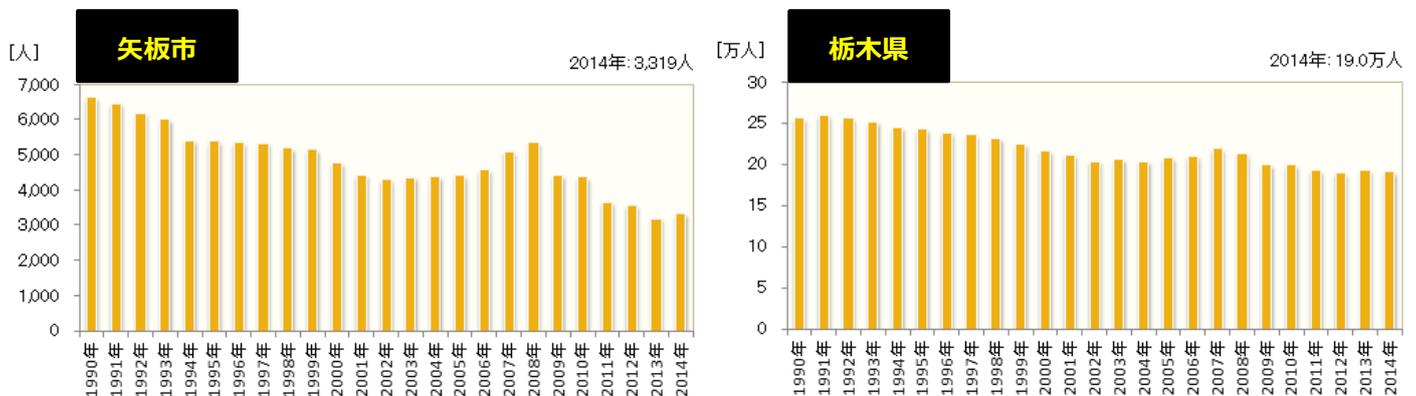
出典：GD Freak! <<http://jp.gdfreak.com/>> 2016/9/1

III-(1)-2. 矢板市の工業従業者の推移

・この25年間で、栃木県も矢板市も緩やかに従業者が減少している。どちらも2007年付近に一度盛り返したが、そこからまた減少の一途を辿っている。

ただ、ここ数年は矢板市のほうが栃木県に比べて減少率が高く、出荷額の減少とも因果関係があると考えられる。

図表：矢板市[左]と栃木県[右]の工業従業者数の推移

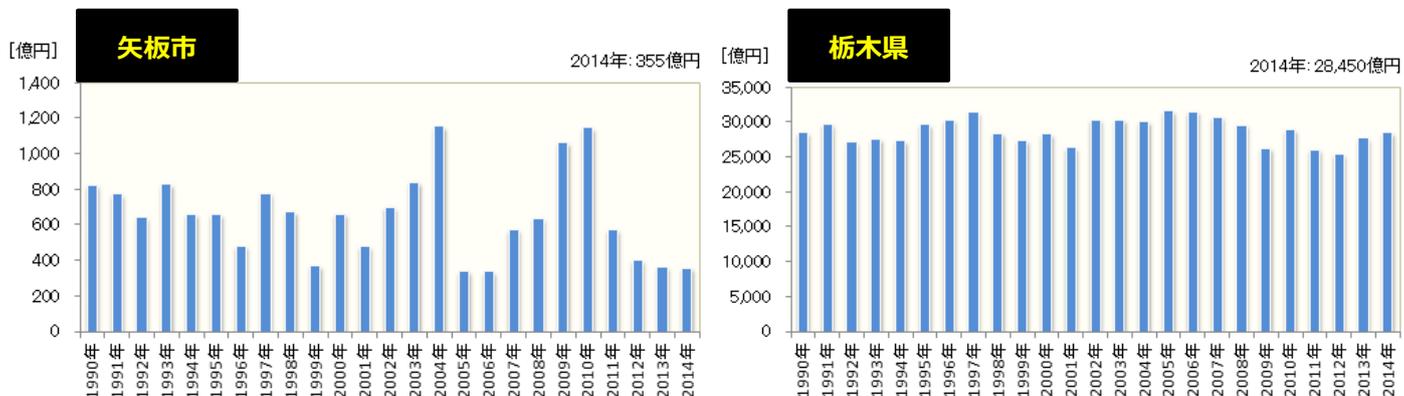


出典：GD Freak! <<http://jp.gdfreak.com/>> 2016/9/1

III-(1)-3. 矢板市の工業粗付加価値額の推移

- ・粗付加価値額も出荷額等と同様、1999年、2005年、2011年に大きく落ち込んでいる。
- ・栃木県全体が2012年～2014年にかけて上昇しているのに対し、矢板市は減少を続けている。
- ・出荷額と連動していることから、原材料や仕入原価などの変動費といった外部環境に原因があるとは考えづらい。

図表：矢板市[左]と栃木県[右]の粗付加価値額の推移



出典：GD Freak! <<http://jp.gdfreak.com/>> 2016/9/1

III-(1)-4. 矢板市の1人あたりの粗付加価値額の推移

- ・2014年の1人当たりの粗付加価値額は、矢板市が1,071万円に対し、栃木県は1,496万円だった。
- ・2012～2014年にかけて全国対比80～85%程を推移している。通常時の粗付加価値額では全国平均を大きく上回っているため、少しでもはやく回復することが必要となる。

図表：矢板市[左]と栃木県[右]の1人当たり粗付加価値額の推移



出典：GD Freak! <<http://jp.gdfreak.com/>> 2016/9/1

III-(2). 矢板市の業種別工業動向

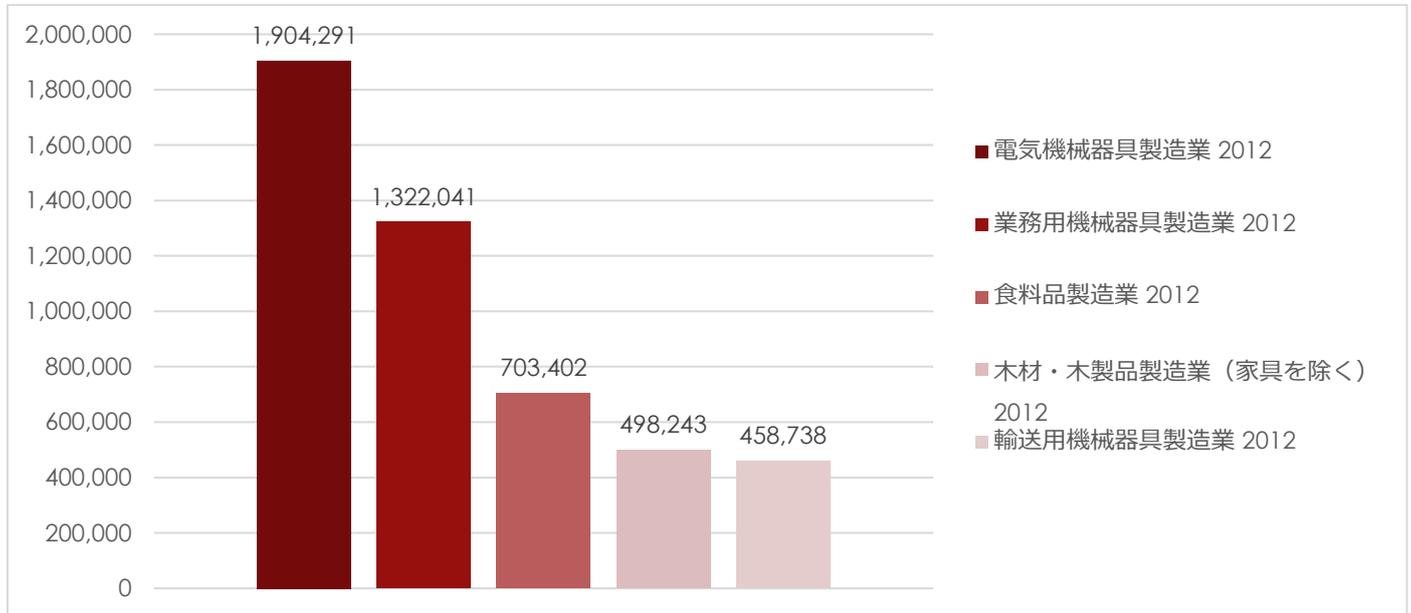
工業統計表をもとに、業種ごとの項目を分析する。なお、矢板市には、従業員1237人(2014年)の情報通信機械器具製造業の企業が1社あるが、製品出荷額や付加価値額、給与総額が不明なため、本分析対象から除外している。

III-(2)-1. 矢板市の工業製造品出荷額等の推移

・2012 年度は電気機械器具製造の出荷額が 190 億円を超え、業務用機械器具製造業(132.2 億円)、食料品製造業(70.3 億円)がそれに続いていた。

図表：矢板市_工業製造品出荷額等(2012 年)

単位：万円

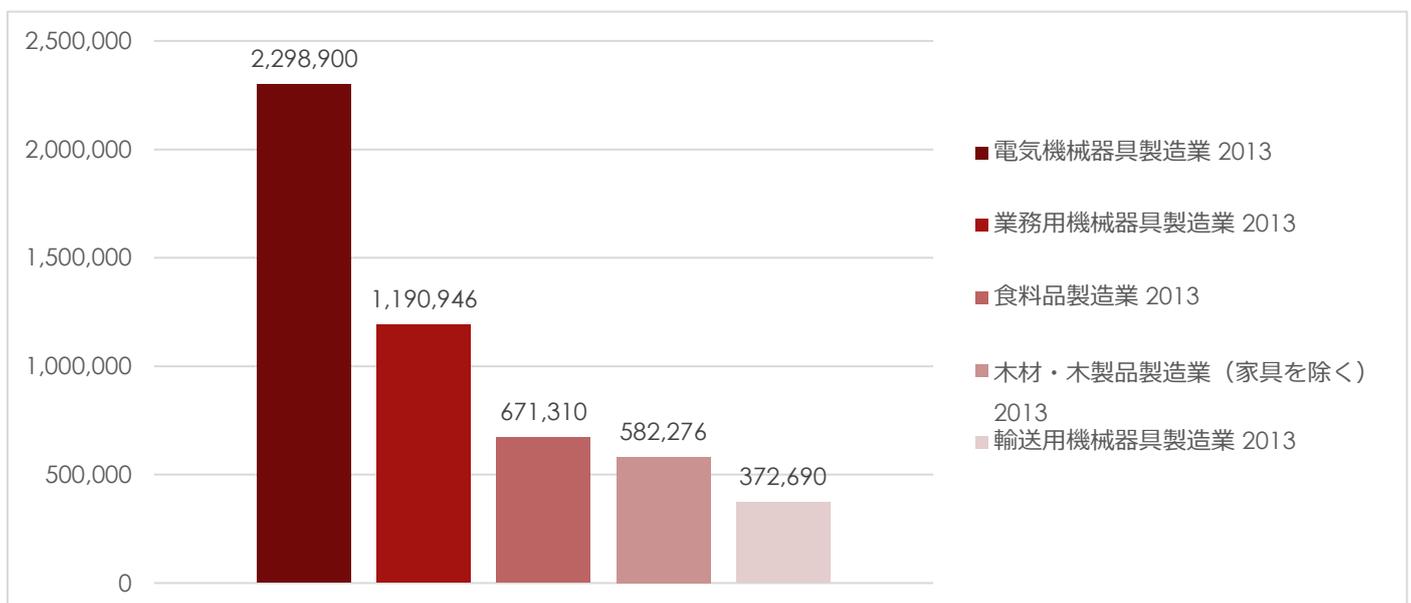


出典：経済産業省『工業統計調査』より筆者作成

・2013 年は電気機械器具製造業の出荷額が約 230 億円と業績は好調であった。また、4 位の木材・木製品製造業の出荷額が増えたが、2 位の業務用機械器具製造業と 5 位の輸送用機械器具製造業の出荷額が減少した。

図表：矢板市_製造品出荷額等(2013 年)

単位：万円

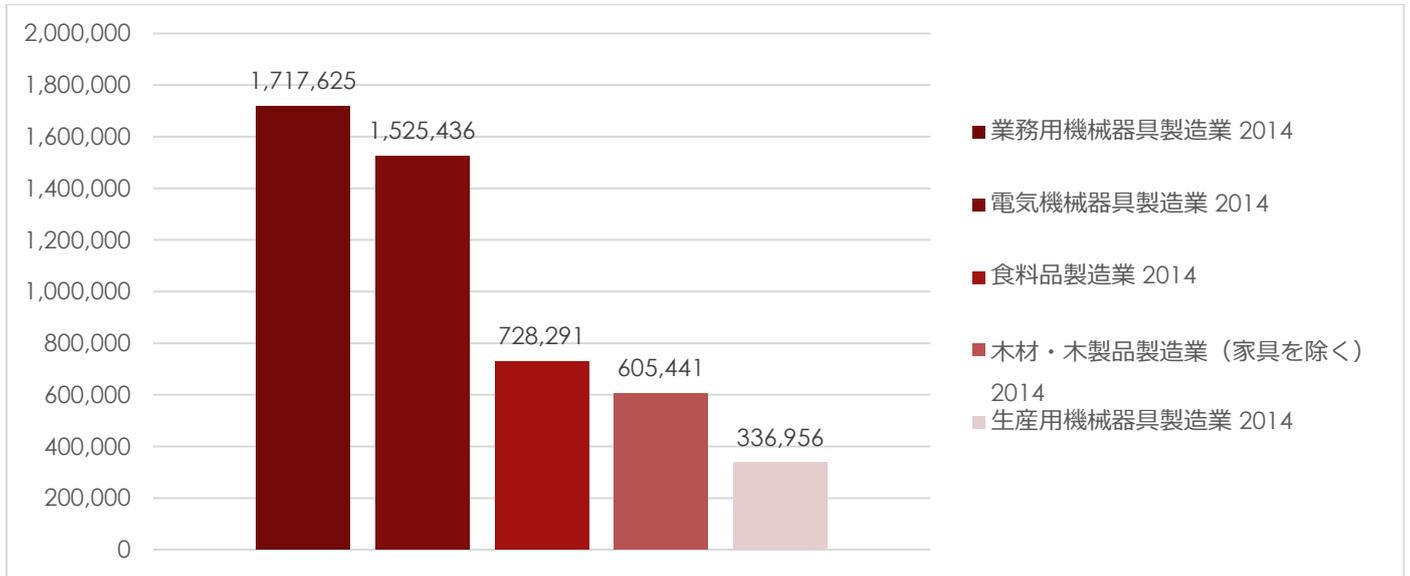


出典：経済産業省『工業統計調査』より筆者作成

・2014 年は、前年まで 2 位であった業務用機械器具製造業が 1 位になり、代わりに、電気機械器具製造業が前年より 50 億円強も出荷額を減らした。また、輸送用機械器具製造業が TOP5 から姿を消した。

図表：矢板市_製造品出荷額等(2014 年)

単位：万円



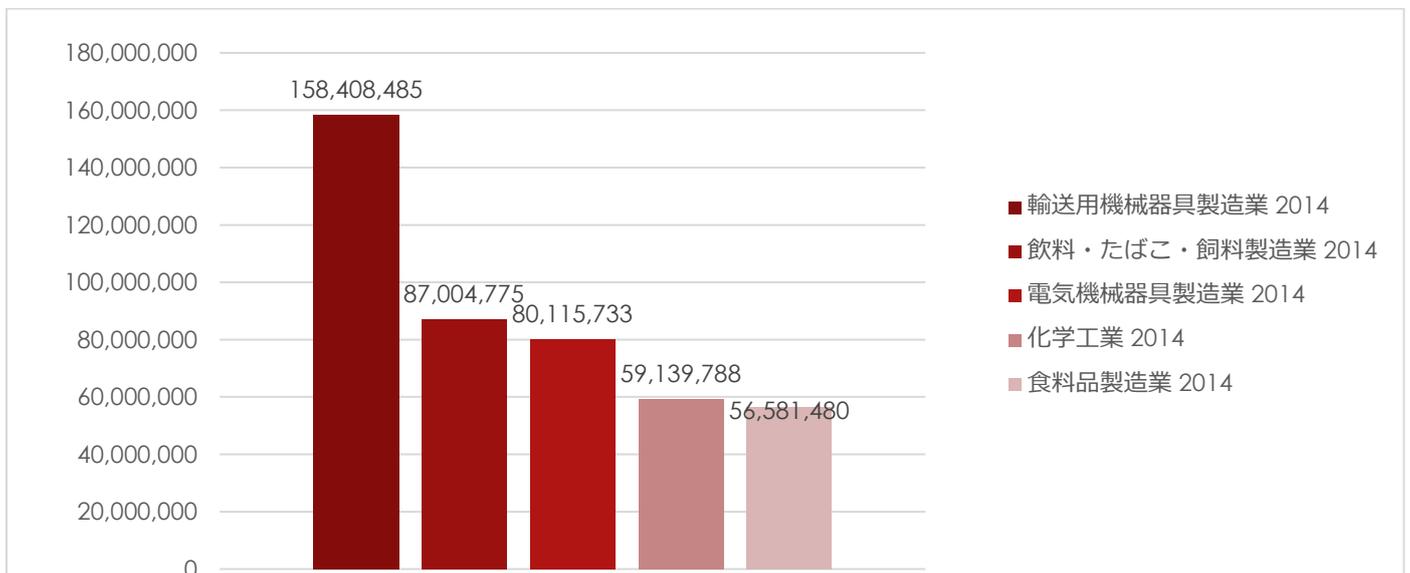
出典：経済産業省『工業統計調査』より筆者作成

『総評』

出荷額では、業務用機械器具製造業と電気機械器具製造業の 2 業種が、矢板市の工業分野を支えていることが分かる。ただ、2014 年には電気機械器具製造業が急に出荷額を減らしたため、外部環境の影響を受けやすいと考えられる。いっぽう、食料品製造業は 3 年連続で 3 位、木材・木製品製造業は 3 年連続で 4 位の出荷額を維持している。栃木県全体でも、食料品製造業の出荷額は 5 位であるため、比較的、安定して業績を残せる業種だといえる。木材・木製品製造業は矢板市のなかで最も特化係数が高かったため、特徴的な産業の一つといえる。

図表：cf.栃木県_製造品出荷額等(2014 年)

単位：万円

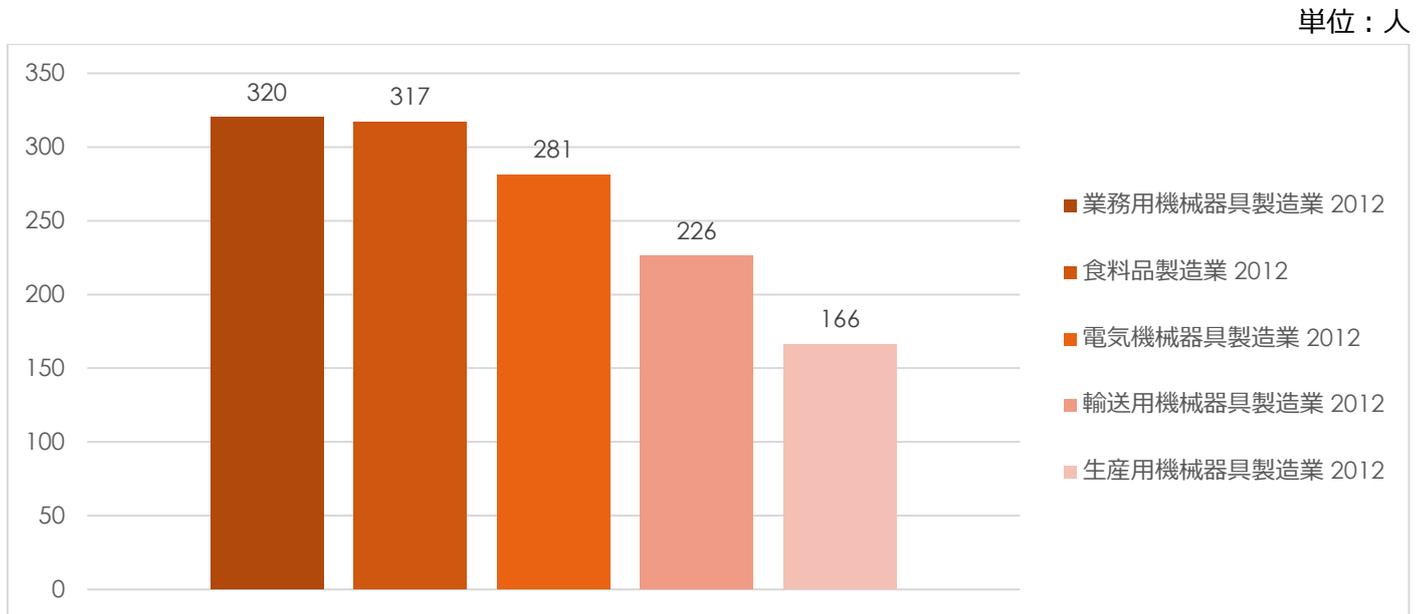


出典：経済産業省『工業統計調査』より筆者作成

III-(2)-2. 矢板市の工業従業員の推移

・2012 年は、業務用機械器具製造業(320 人)の従業員が最も多く、ほぼ同数で食料品製造業(317 人)が続いた。出荷額が 1 位であった電気機械器具製造業(281 人)は、従業員では 3 位であった。

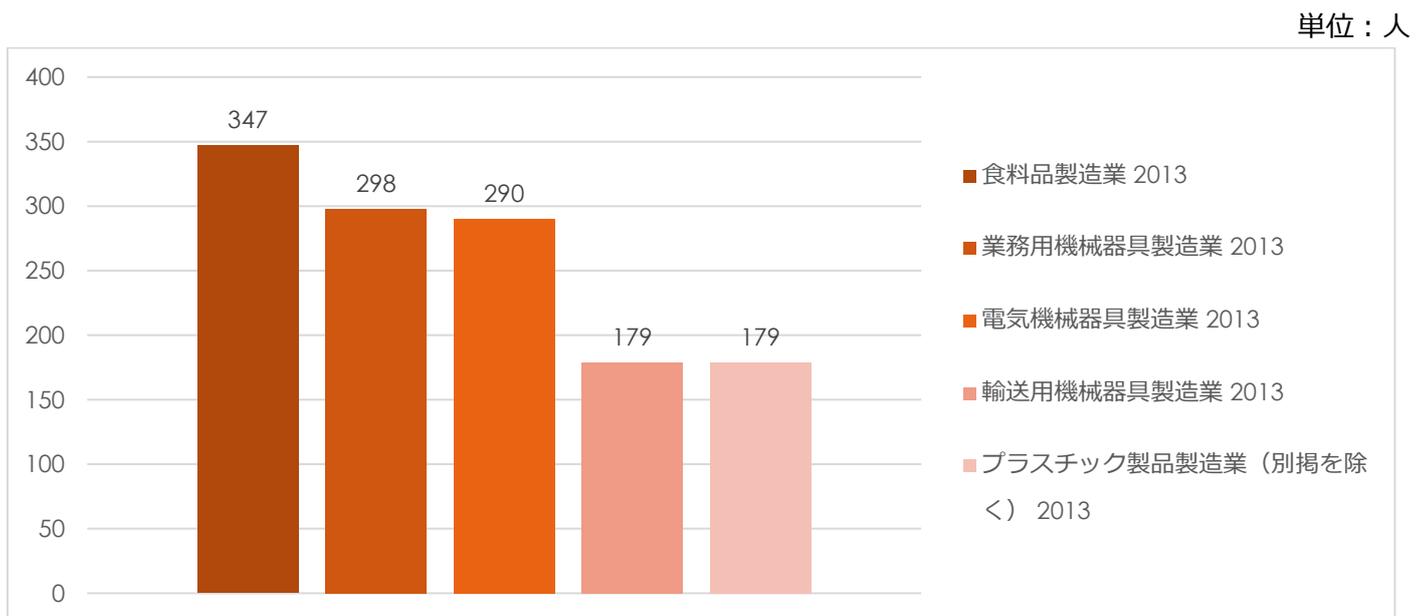
図表：矢板市_従業員数(2012 年)



出典：経済産業省『工業統計調査』より筆者作成

・2013 年は、食料品製造業が前年より 30 人増え 1 位になり、いっぽうで業務用機械器具製造業は 20 人減ったことで 2 位になった。なお、出荷額は、業務用機械器具製造業も食料品製造業もどちらも減少している。

図表：矢板市_従業員数(2013 年)

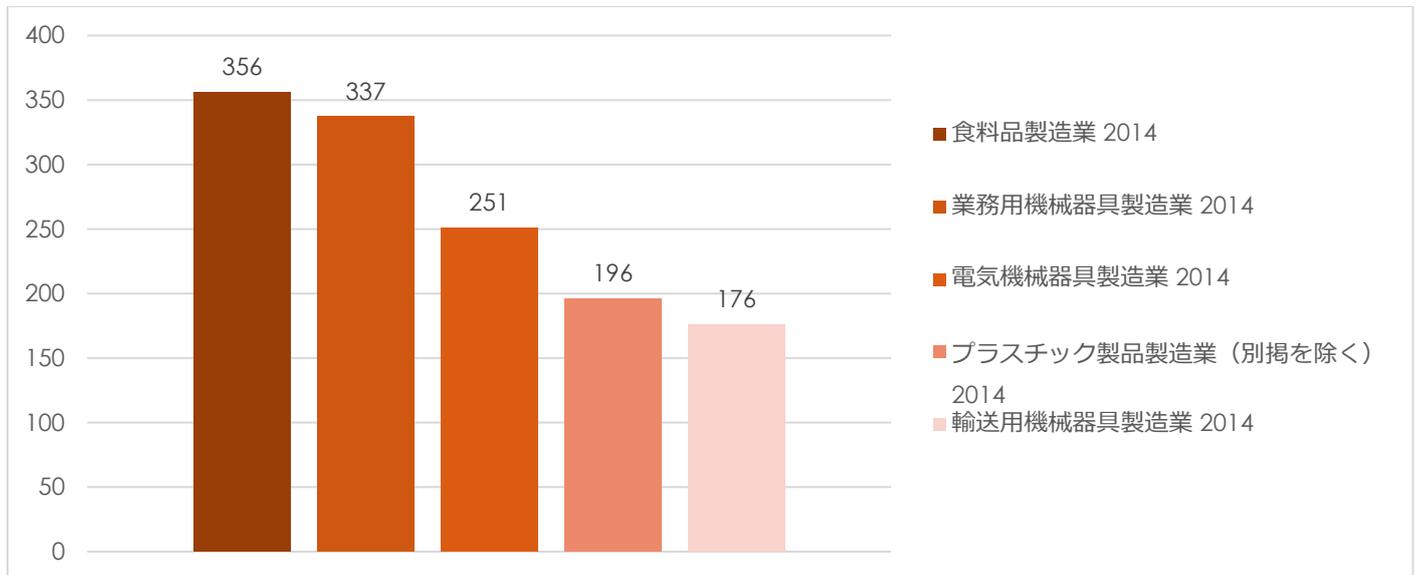


出典：経済産業省『工業統計調査』より筆者作成

・2014 年は、業務用機械器具製造業の従業員が 39 人弱増えたっぽうで、電気機械器具製造業の従業員が 39 人減少した。出荷額も同様、業務用機械製造業は増加し、電気機械器具製造業は減少しており、相関性があると考えられる。

図表：矢板市_従業員数(2014 年)

単位：人



出典：経済産業省『工業統計調査』より筆者作成

『総評』

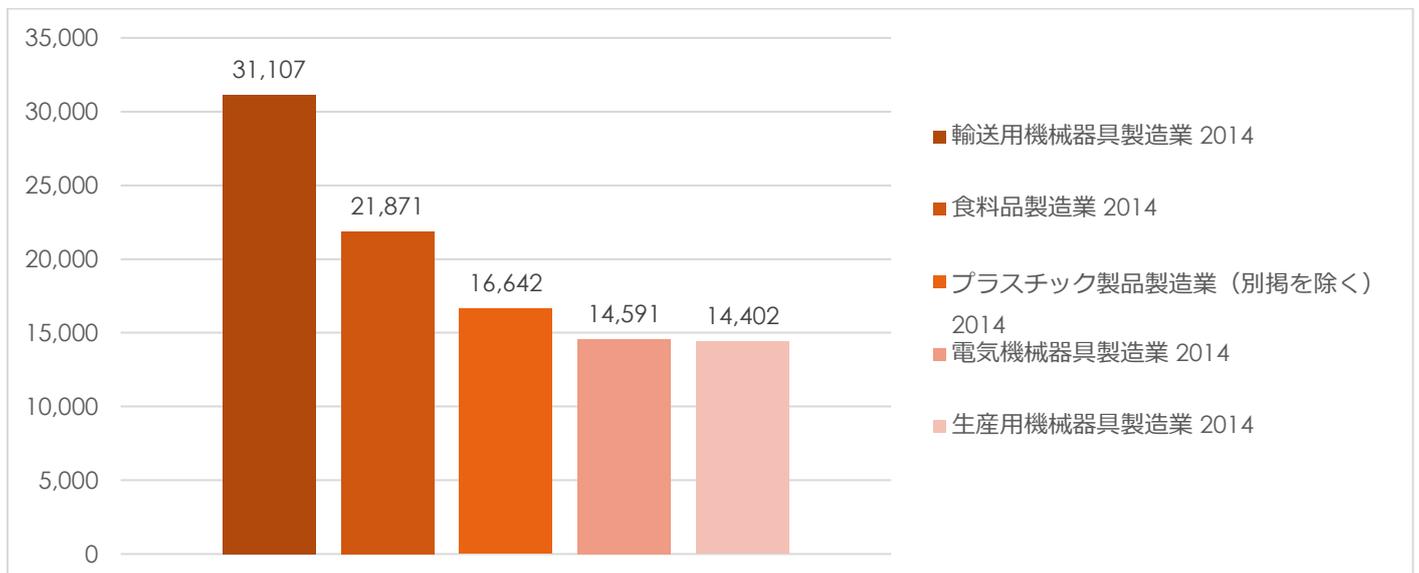
若干の順位の変動はあるものの、従業員数の TOP5 の業種は 3 年間変わりなかった。

いっぽう、栃木県は輸送用機械器具製造業の従業員が最も多く、食料品製造業とプラスチック製品製造業がそれに続いている。

矢板市と栃木県の共通の傾向として、出荷額が下がった年は、その業種の従業員数も同様に減少するケースが多かった。どちらが原因でどちらが結果か断定する事はできないが、少なくとも相関関係はあると見られる。

図表：cf.栃木県_従業員数(2014 年)

単位：人



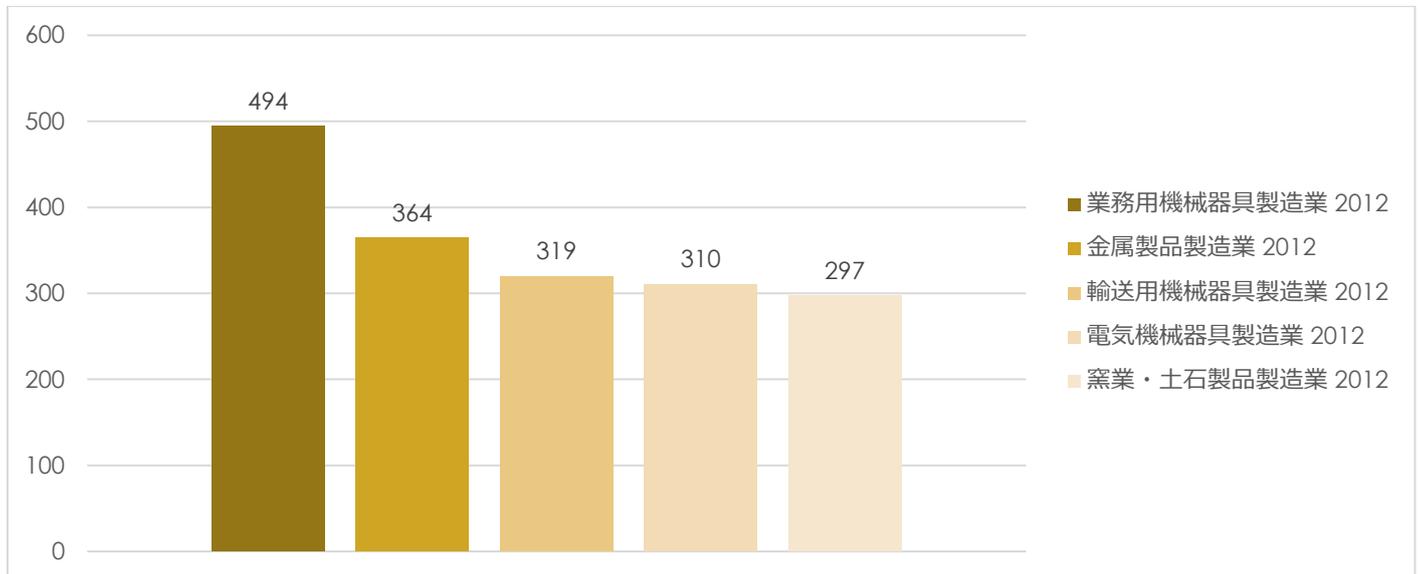
出典：経済産業省『工業統計調査』より筆者作成

III-(2)-3. 矢板市の工業従業員 1 人あたりの現金給与支給額の推移

・2012 年は、業務用機械器具製造業(494 万円)が高く、それに金属製品製造業(364 万円)が続き、輸送用機械器具製造業(319 万円)、電気機械器具製造業(310 万円)、窯業・土石製品製造業(297 万円)が同水準で並んでいる。

図表：矢板市_従業員 1 人あたりの現金給与支給額(2012 年)

単位：万円

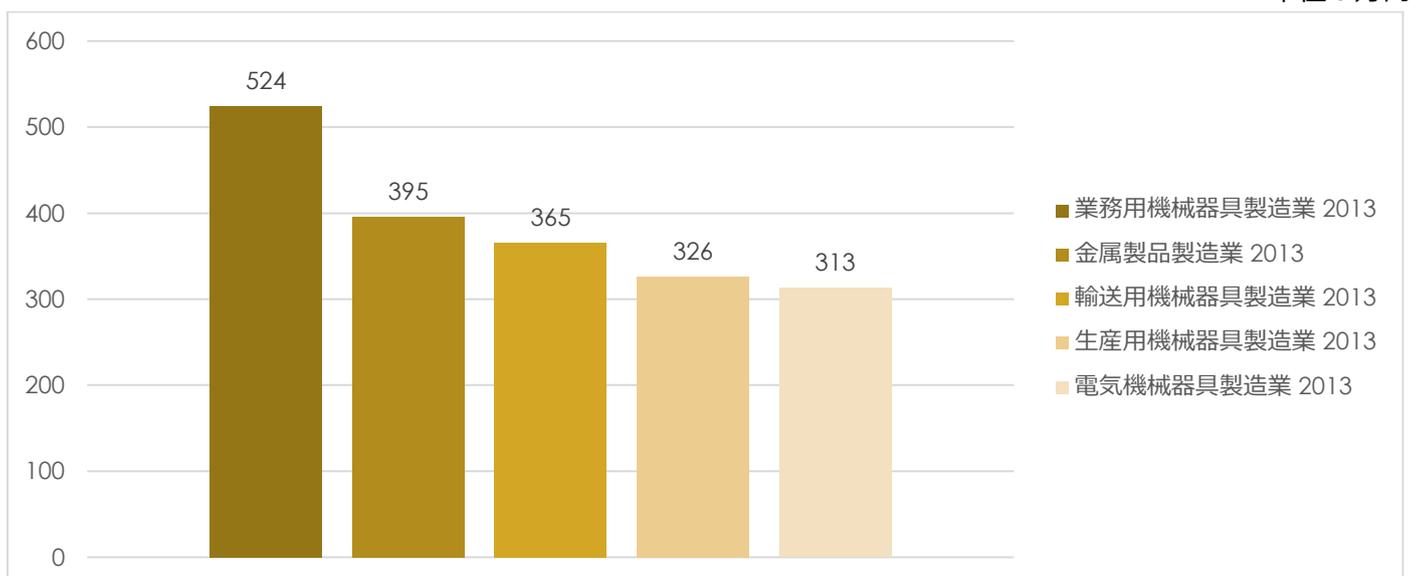


出典：経済産業省『工業統計調査』より筆者作成

・2013 年は、ほぼ前年と同じ並び順であり、各業種とも 20～30 万円ほど支給額が上がった。前年との違いとして、生産用機械器具製造業が 4 位にランクインし、窯業・土石製品製造業(301 万円)がランク外になった。

図表：矢板市_従業員 1 人あたりの現金給与支給額(2013 年)

単位：万円

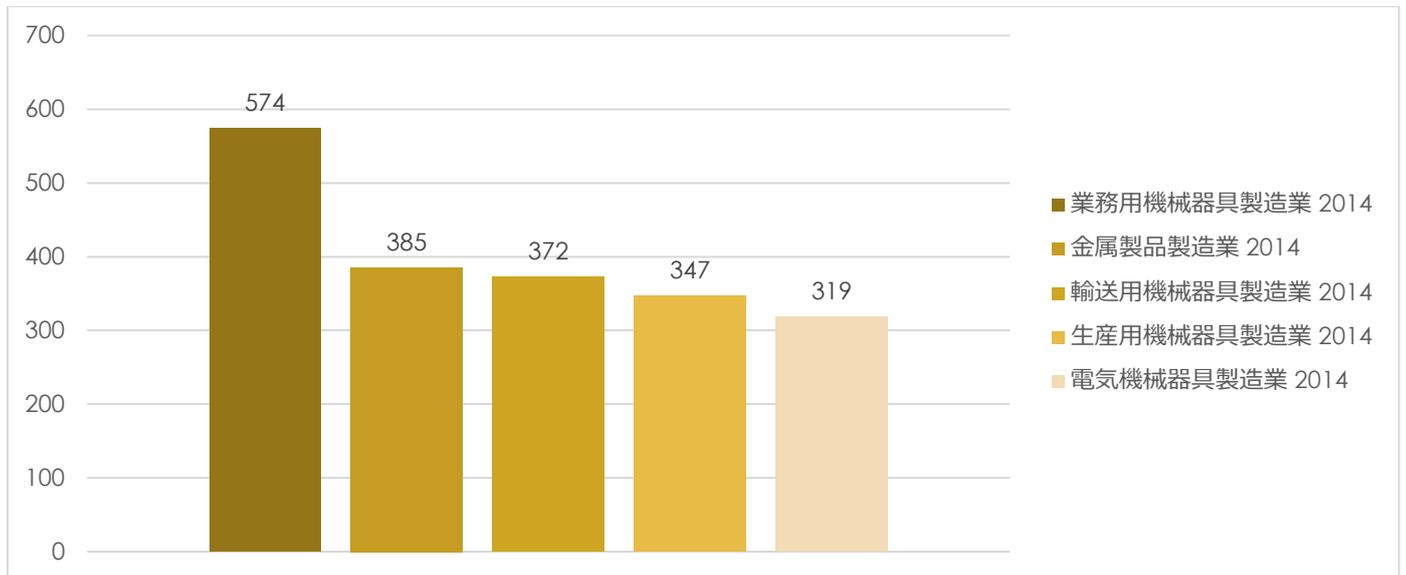


出典：経済産業省『工業統計調査』より筆者作成

・2014 年は、他業種がほぼ横ばいの中、業務用機械器具製造業だけが大幅に伸長し、2 年間で 80 万円も給与支給額が上がった。また、2013 年にランクインした生産用機械器具製造業も順調に給与支給額が増加している。

図表：矢板市_従業員 1 人あたりの現金給与支給額(2014 年)

単位：万円



出典：経済産業省『工業統計調査』より筆者作成

『総評』

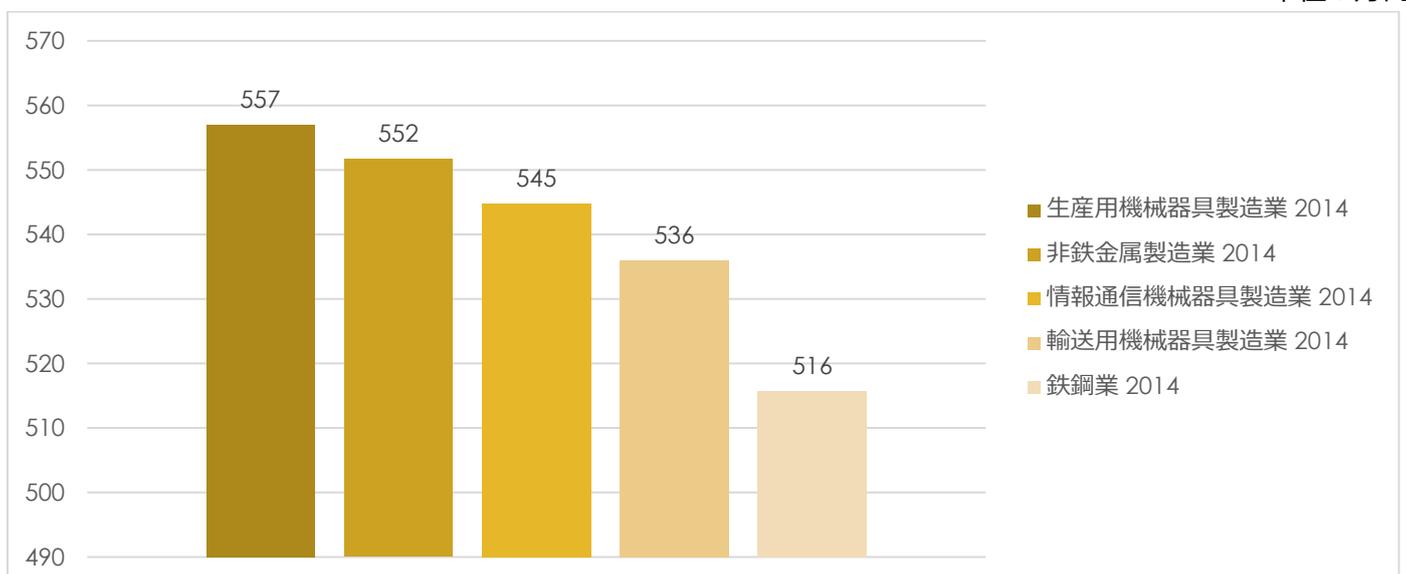
・2012 年から 2013 年にかけては全体的に給与が上がり、2013 年から 2014 年にかけては、ほぼ横ばいであった。その中で、業務用機械器具製造業だけは、順調に給与額を伸ばしていった。

・いっぽうランキング外に目を向けると、出荷額では平均 3 位、従業員数では 1 位であった食料品製造業は、226 万円 (2012 年)、211 万円(2013 年)、224 万円(2014 年)となっており、2013 年と 2014 年は全業種で最下位であった。

・栃木県全体では、生産用機械器具製造業や非鉄金属製造業、情報通信機械器具製造業など、矢板市ではランクインしていないもの業種が多く、これらの業種の振興が、給与支給額および一般消費額の増加に寄与し得ると考えられる。

図表：cf.栃木県_従業員 1 人あたりの現金給与支給額(2014 年)

単位：万円



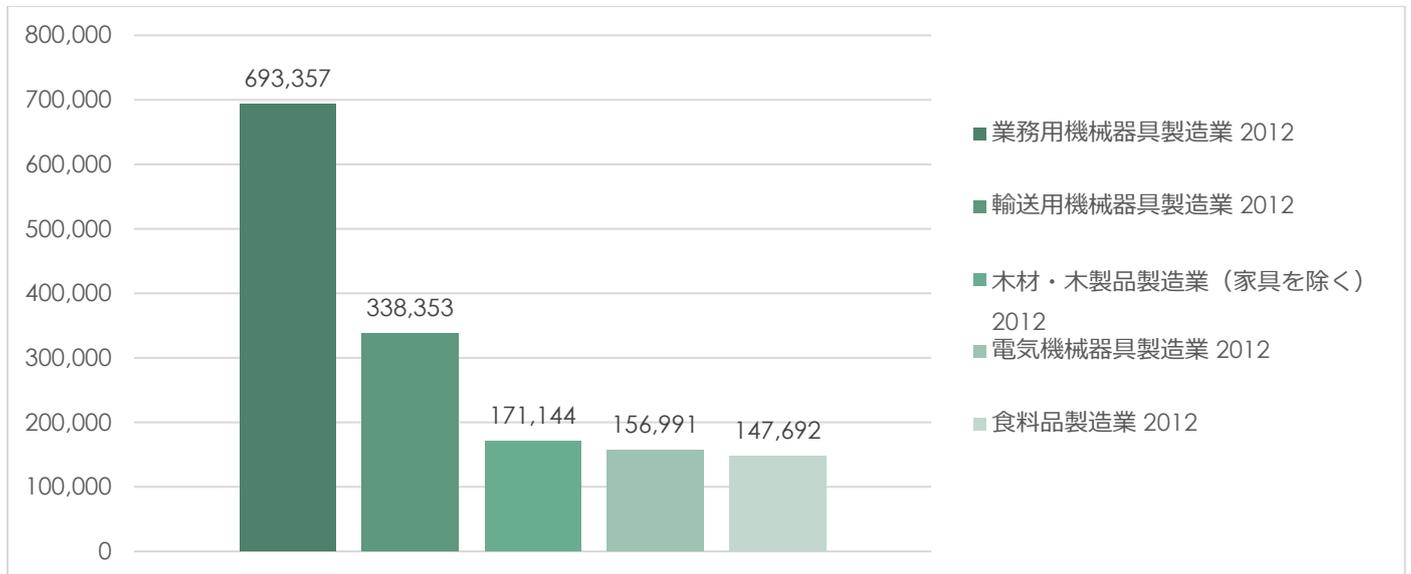
出典：経済産業省『工業統計調査』より筆者作成

III-(2)-4. 矢板市の工業粗付加価値額の推移

・2012 年は、業務用機械器具製造業(69.3 億円)が最も高く、輸送用機械器具製造業(33.8 億円)がそれに続き、木材・木製品製造業(17.1 億円)、電気機械器具製造業(15.6 億円)、食料品製造業(14.7 億円)が並んでいる。

図表：矢板市_粗付加価値額(2012 年)

単位：万円

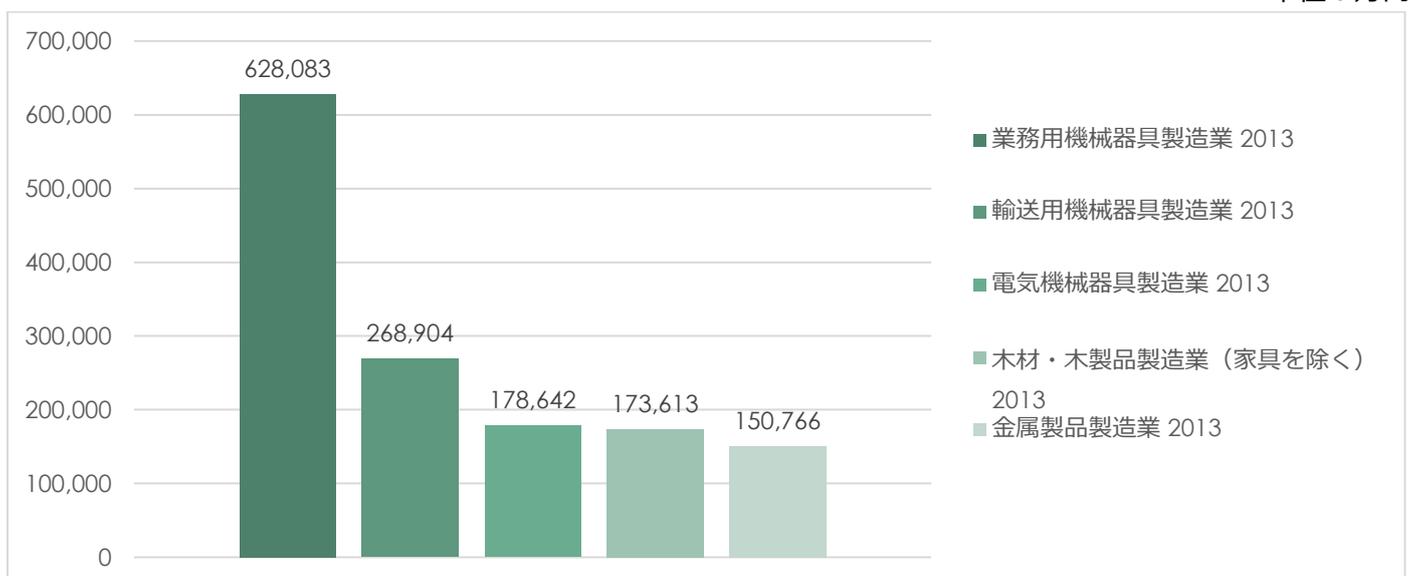


出典：経済産業省『工業統計調査』より筆者作成

・業務用機械器具製造業、輸送用機械器具製造業(ともに前年比 7 億円減)など全業種的に減少している中で、電気機械器具製造業は 2.2 億円増で、出荷額等の増加と比例した動きを見せた。

図表：矢板市_粗付加価値額(2013 年)

単位：万円

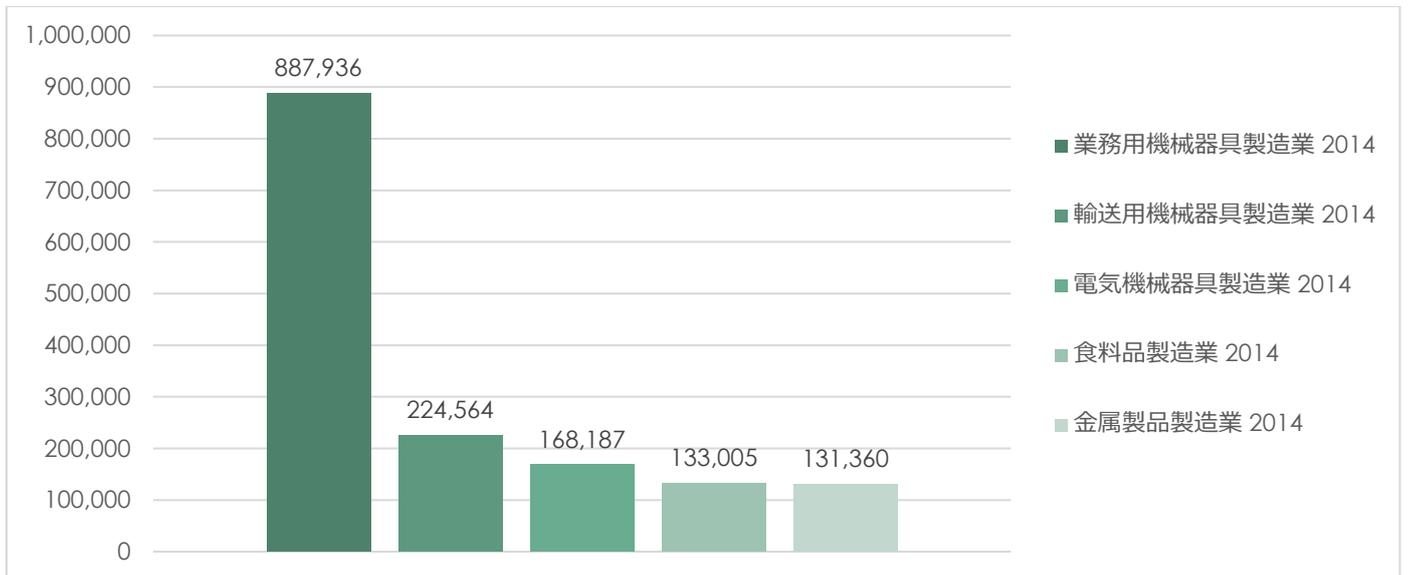


出典：経済産業省『工業統計調査』より筆者作成

・2014 年は、業務用機械器具製造業が 25.9 億円増と大幅に増加した一方で、他の業種は軒並み減少した。木材・木製品製造業は、出荷高等が増加(2.3 億円増)したにもかかわらず、粗付加価値額は減少(4.6 億円減)している。

図表：矢板市_粗付加価値額(2014 年)

単位：万円



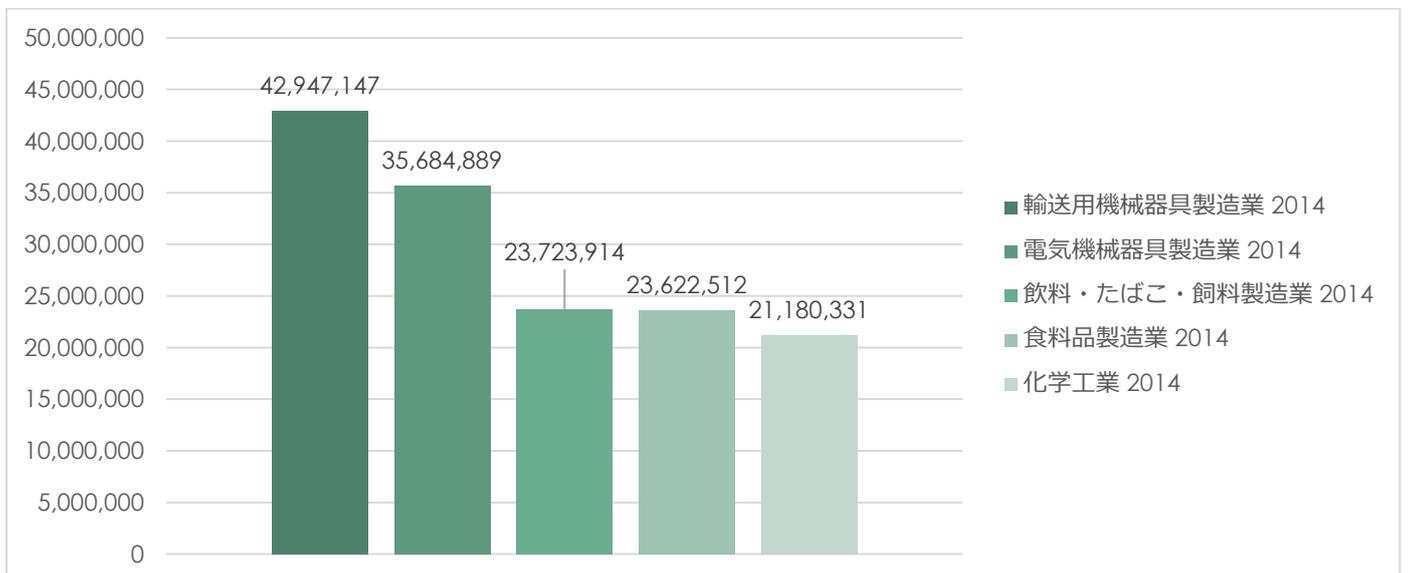
出典：経済産業省『工業統計調査』より筆者作成

『総評』

- ・業務用機械器具製造業の粗付加価値額の高さが際立っている。
 - ・出荷高等では、電気機械器具製造業は 3 年間の平均が 200 億円と業務用機械器具製造業を上回っていたが、粗付加価値額では 16 億円前後になっている。
- このことから、原材料使用額等が高いことが分かる。矢板市全体の経済を考えた場合、仕入先をいかに市内でまかなえるが大事になってくると言える。
- ・栃木県全体では、輸送用機械器具製造業の粗付加価値が最も高かった。

図表：cf.栃木県_粗付加価値額(2014 年)

単位：万円



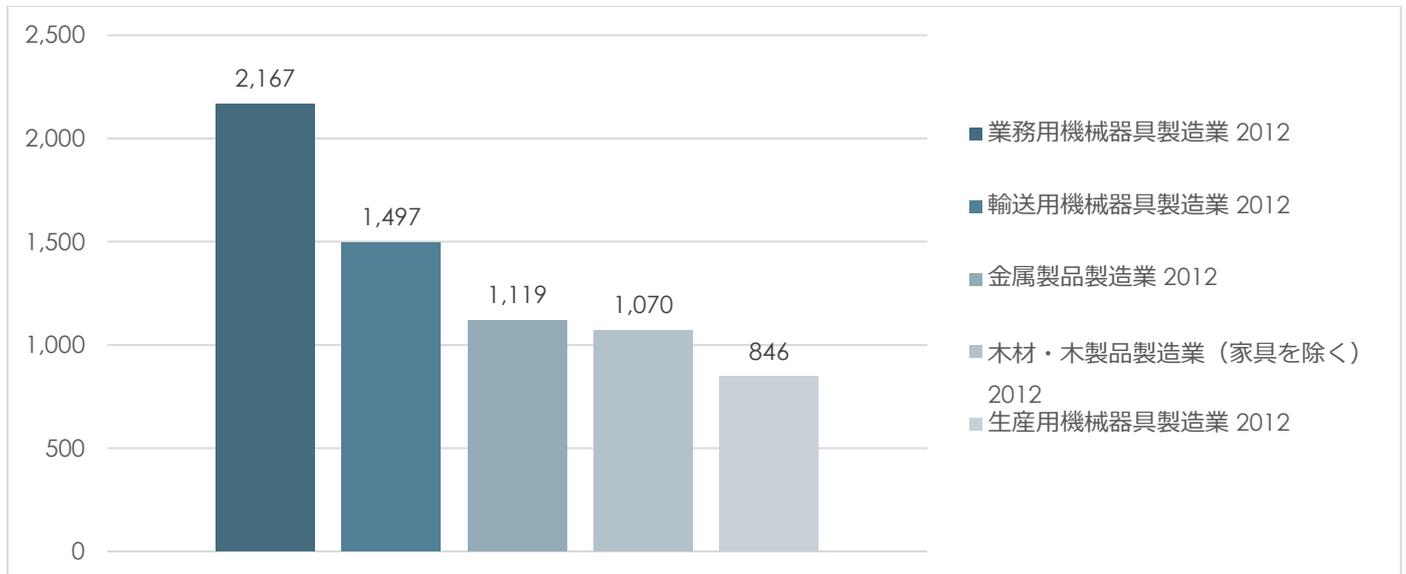
出典：経済産業省『工業統計調査』より筆者作成

III-(2)-5. 矢板市の1人あたりの工業粗付加価値額の推移

・2012年は、業務用機械器具製造業が21.6百万円と最も高く、それに輸送用機械器具製造業が14.9百万円と続き、金属製品製造業(11.1百万円)、木材木製品製造業(10.7百万円)、生産用機械器具製造業(8.4百万円)が並ぶ。

図表：矢板市_1人あたりの粗付加価値額(2012年)

単位：万円

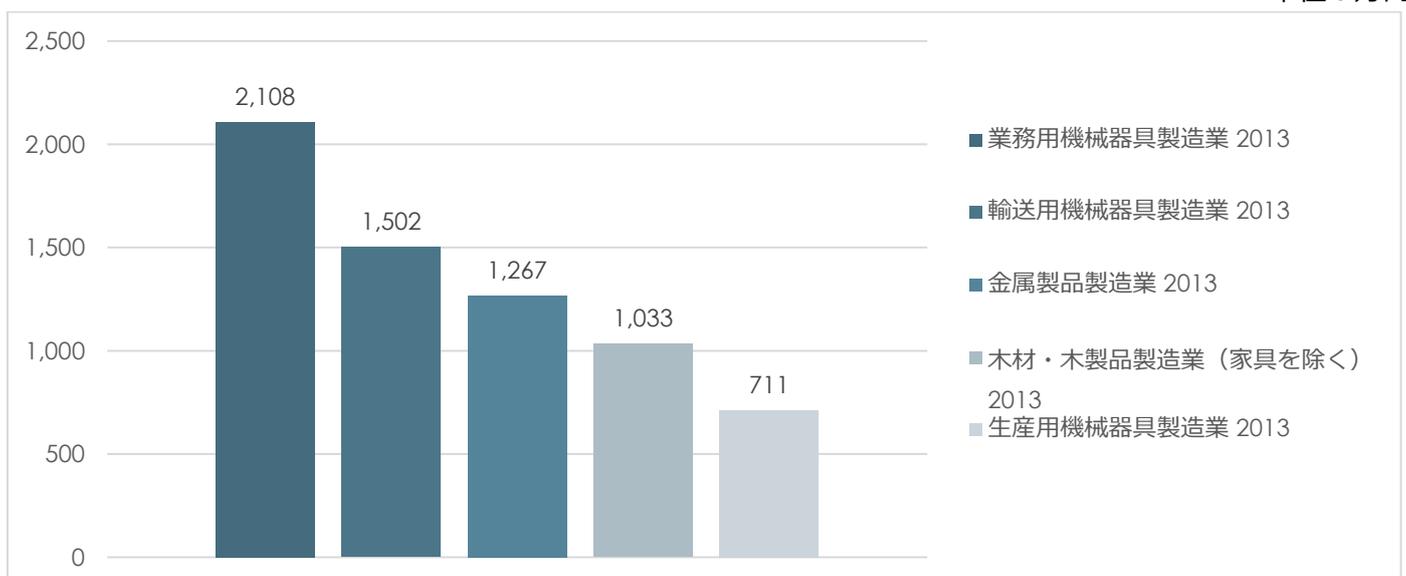


出典：経済産業省『工業統計調査』より筆者作成

・2013年は、金属製品業が若干上昇し(1.5百万円増)、生産用機械具製造業が若干減少した(1.3百万円減)。業務用機械器具製造業は、粗付加価値全体が上昇し、従業員が減ったにもかかわらず、1人当たりの粗付加価値は減少した。

図表：矢板市_1人あたりの粗付加価値額(2013年)

単位：万円

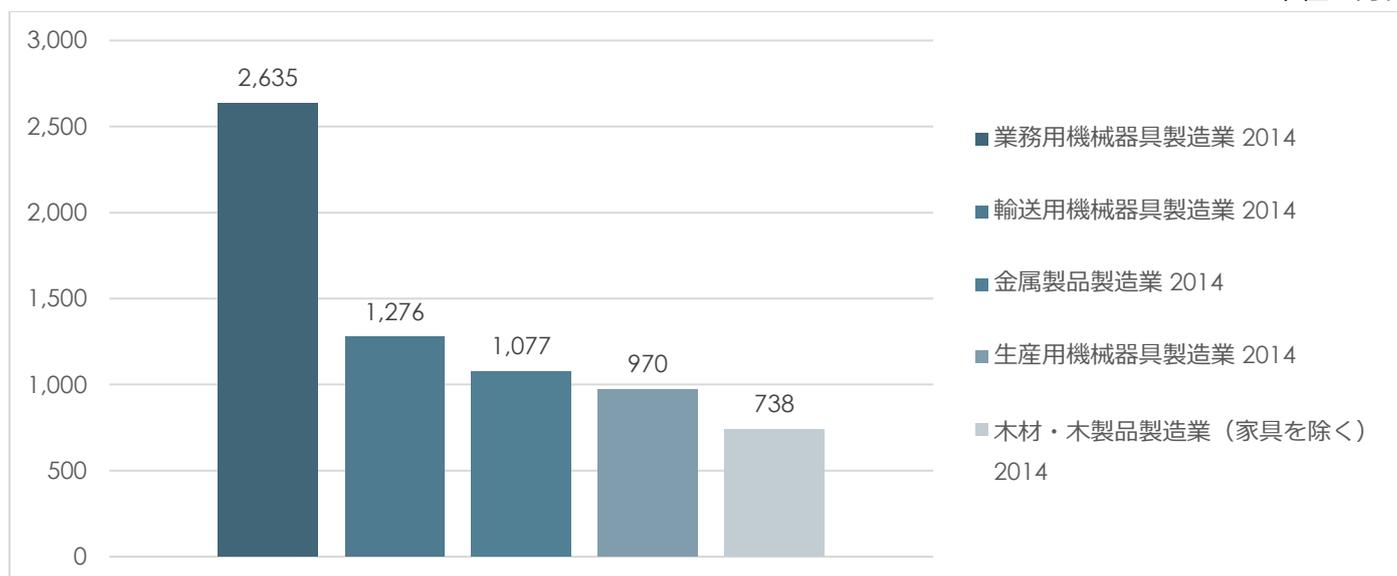


出典：経済産業省『工業統計調査』より筆者作成

・2014 年は、業務用機械器具製造業が大幅に増加したっぽうで、その他の業種は軒並み減少した。これは粗付加価値額全体と同じ傾向である。

図表：矢板市_1 人あたりの粗付加価値額(2014 年)

単位：万円



出典：経済産業省『工業統計調査』より筆者作成

『総評』

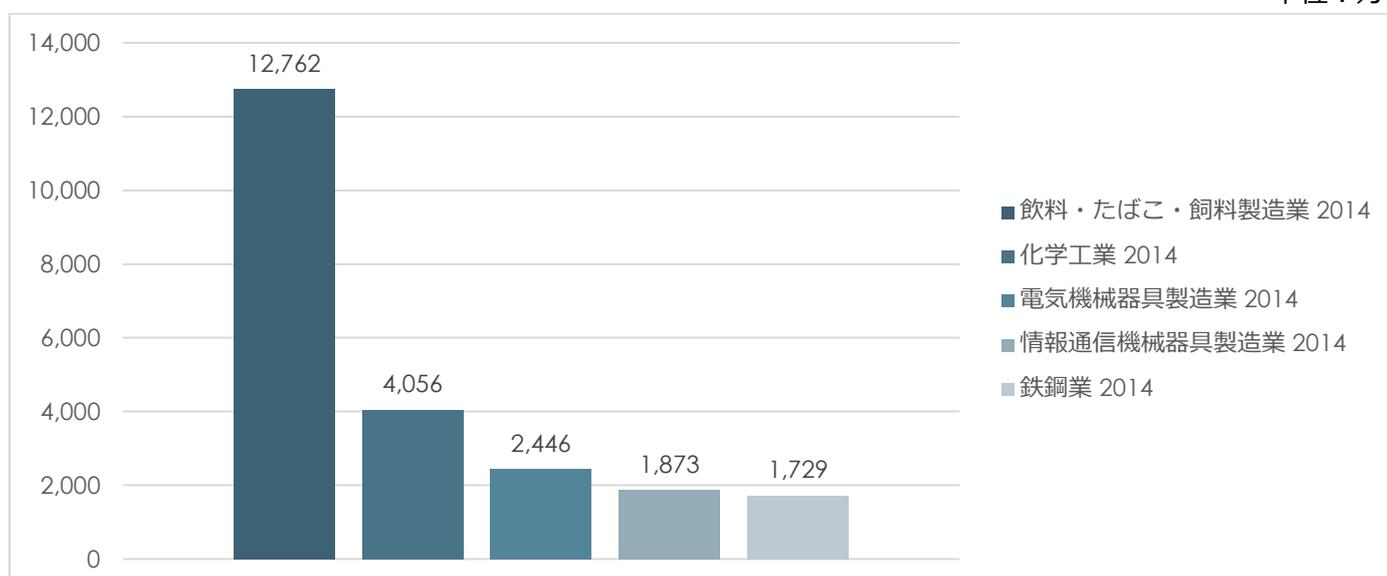
・粗付加価値額全体と同様、業務用機械器具製造業が頭一つ抜けて高く、それを輸送用機械器具製造業が追った形となっている。

・差異点としては、1 人あたりの粗付加価値の上位 5 位には食料品製造用と電気機械器具製造業が、この 2 業種は従業員数も多いためだと考えられる。

ただ、電気機械製造業が 1 人あたりの現金給与支給額が上位 5 位に入っているのに対して、食料品製造業は前述の通り給与も低いため、1 人あたりの粗付加価値額も 3 年連続最下位(平均 4 百万円)であった。

図表：cf. 栃木県_1 人あたりの粗付加価値額(2014 年)

単位：万円



出典：経済産業省『工業統計調査』より筆者作成

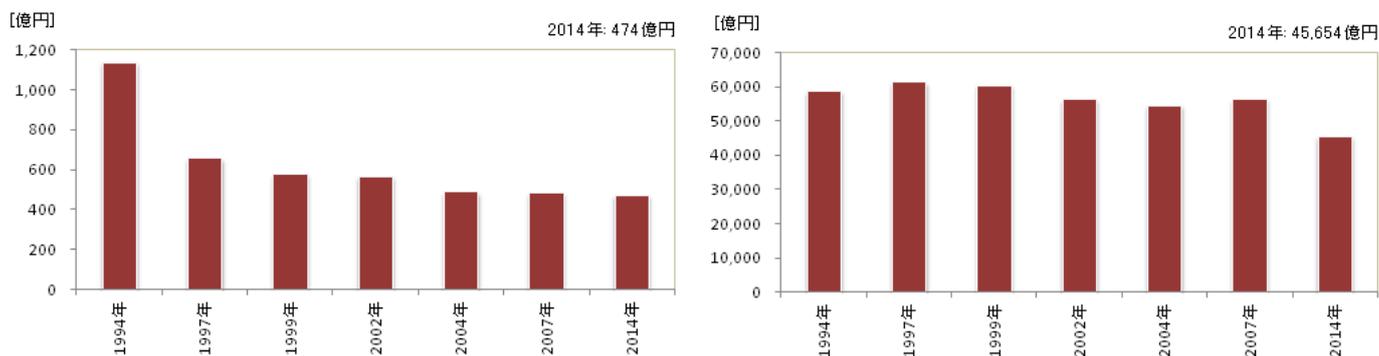
IV. 矢板市の第3次産業等

IV-(1). 矢板市の商業動向

IV-(1)-1. 矢板市の年間商業販売額の推移

・矢板市の2014年の商業の年間商品販売額は474.4億円で、1997年度から微減少している。対2007年度では、2.5%の減少である。いっぽう栃木県も全体的に減少傾向である。対2007年度では19.2%も減少しているため、矢板市のほうが減少率は少ないといえる。

図表：矢板市[左]と栃木県[右]の商業年間販売額の推移

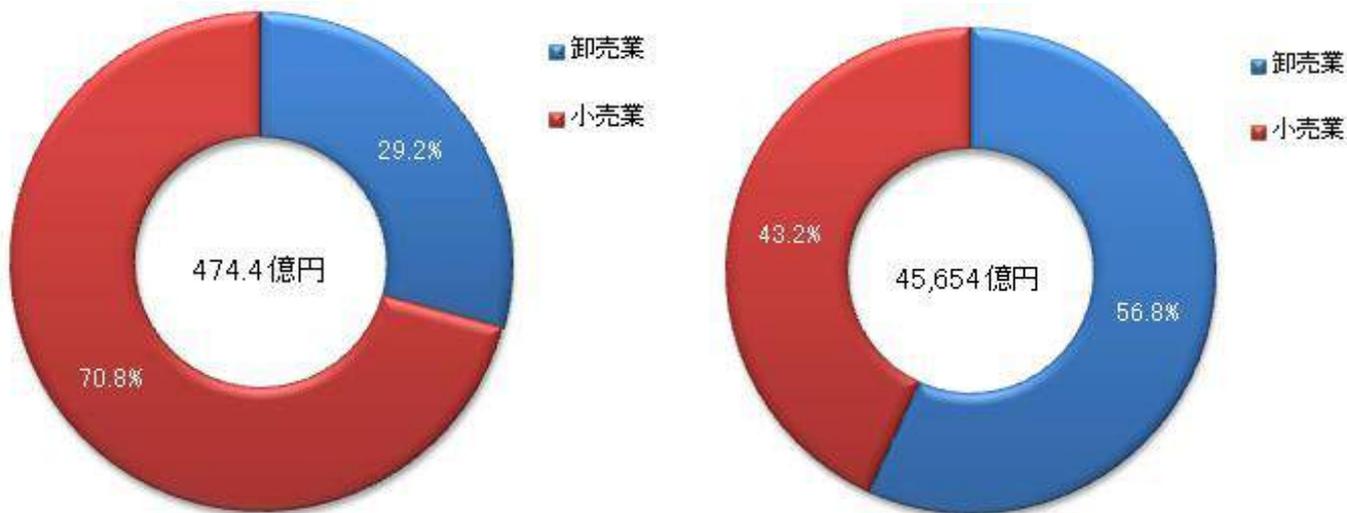


出典：GD Freak! <<http://jp.gdfreak.com/>> 2016/9/1

IV-(1)-2. 矢板市の卸売業と小売業の割合

・矢板市の商業販売額の割合は、卸売業が約3割に対し、小売業が7割を超えている。栃木県では、57%：43%であるため、比較的、小売業が盛んということが分かる。

図表：矢板市[左]と栃木県[右]の年間商業販売額に占める卸売業と小売業の割合

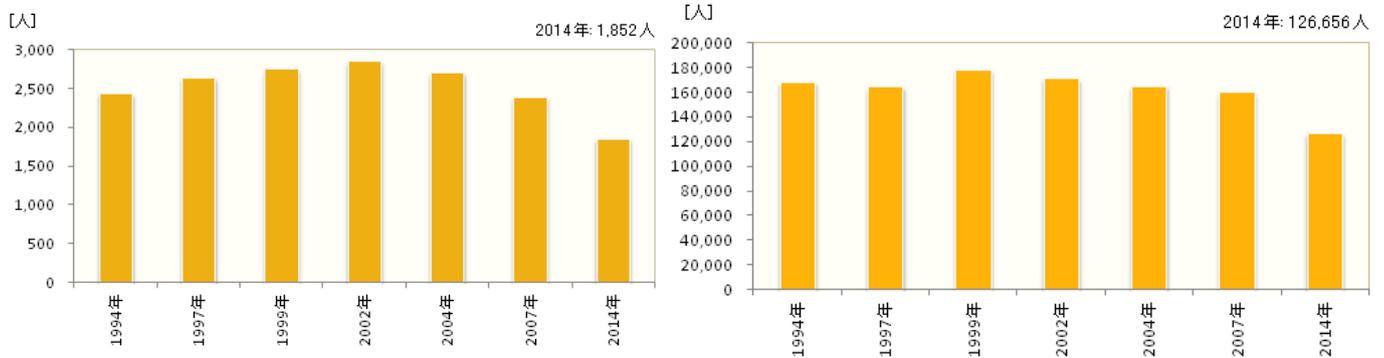


出典：GD Freak! <<http://jp.gdfreak.com/>> 2016/9/1

IV-(1)-3.矢板市の商業従業者数の推移

・2014年の従業者数は1,852人で、2007年と比べると、22.6%減少している。いっぽう栃木県の商業従業者数は126,656人で、2007年と比べると20.8%減少している。どちらも直近10年で減少の一途を辿っている。

図表：矢板市[左]と栃木県[右]の商業従業者数の推移



出典：GD Freak! <<http://jp.gdfreak.com/>> 2016/9/1

IV-(1)-4.矢板市の商業従業者一人当たり年間商品販売額の推移

・2014年の従業者1人当たりの商品販売額は、1997年以降で最も高く、23百万円だった。2007年度と比較しても、26%増である。いっぽう栃木県は、36百万円と矢板市よりも高い水準であったが、2007年度比は2.0%増であった。矢板市は今後もこの傾向を維持することで、県の平均水準まで押し上げたい。

図表：矢板市[左]と栃木県[右]の商業従業者一人当たり年間商品販売額の推移



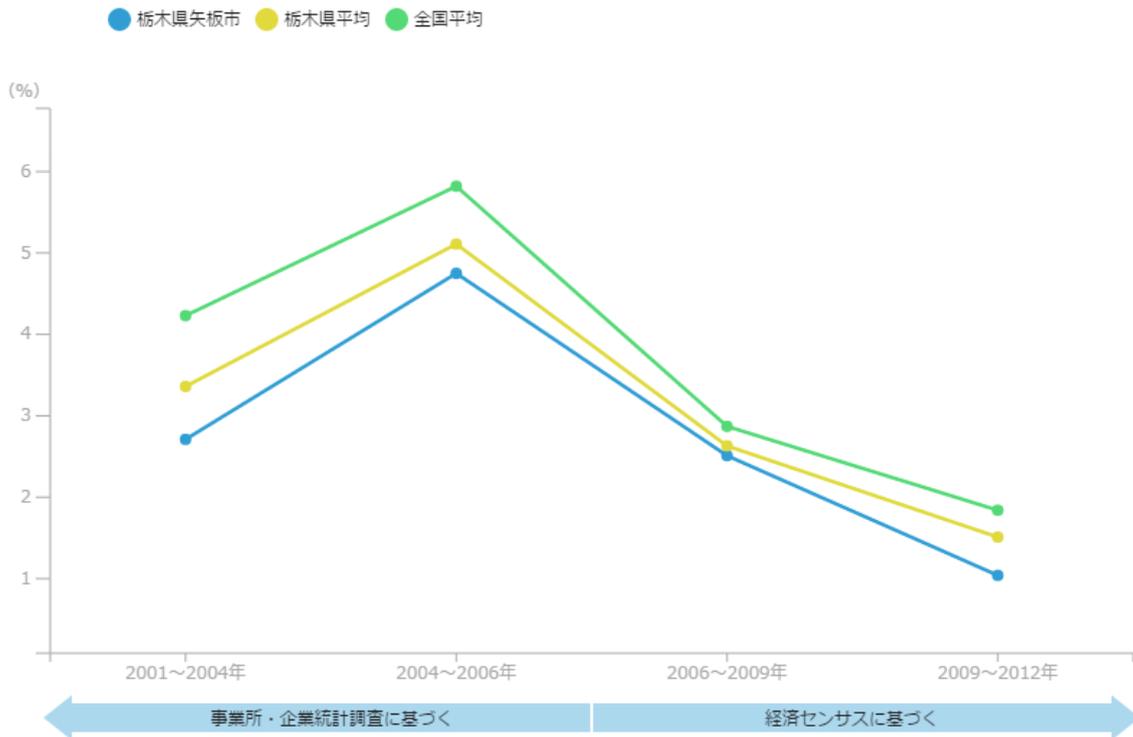
出典：GD Freak! <<http://jp.gdfreak.com/>> 2016/9/1

IV-(2).矢板市のその他の指標

IV-(2)-1.矢板市の創業比率と黒字赤字企業比率

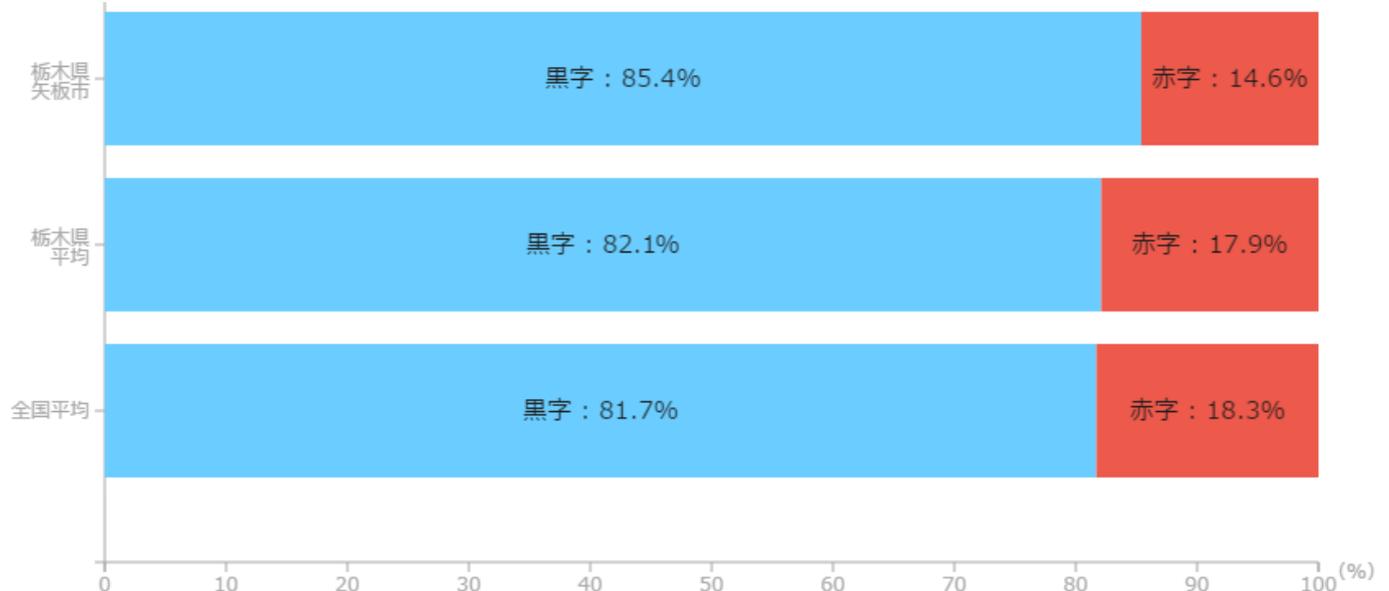
・矢板市の起業比率は全国平均、栃木県平均よりも常に低い。いっぽうで、黒字企業は全国平均、栃木県よりも高い水準を維持している。このことから、堅実な企業経営を行う事業者が多いことが分かる。なお、新規事業は既存企業に比べて新しい雇用を生み出しやすいため、起業がしやすくなる環境を整えることは、地域の経済発展に寄与すると考えられる。

図表：創業比率



出典：経済産業省/内閣官房『RESAS』より筆者抜粋

図表：黒字赤字企業比率 2012年



出典：経済産業省/内閣官房『RESAS』より筆者抜粋

V. Appendix(栃木県の情報)

V-(1).栃木県全体の情報

V-(1)-1.栃木県の主要指標

図表：製造品出荷額の第1位が栃木県の工業製品一覧

分類	製造品	出荷額 (百万円)	出荷額(全国) (百万円)	全国順位	シェア (%)	年
木材・木製品	木質系プレハブ住宅	4,261	7,795	1位	54.7	H25
パルプ・紙・紙加工品	絶縁紙、絶縁テープ	1,453	3,054	1位	47.6	H25
プラスチック製品	硬質プラスチック発泡製品(厚板)(厚さ3mm以上)	21,030	93,060	1位	22.6	H25
金属製品	シャツタ	19,673	94,742	1位	20.8	H25
生産用機械器具	半導体製造装置の部分品・取付具・附属品	39,315	337,340	1位	11.7	H25
業務用機械器具	工業用長さ計	8,472	33,750	1位	25.1	H25
	歯科用機械器具、同装置	22,615	64,900	1位	34.8	H25
	カメラ用交換レンズ	108,971	176,628	1位	61.7	H25
	光学レンズ	15,803	79,086	1位	20.0	H25
その他の製品	万年筆・シャープペンシル部分品、ペン先、ペン軸	713	3,795	1位	18.8	H25

出典：経済産業省『平成25年工業統計調査』(とちぎの統計情報)

図表：栃木県の収穫量の全国順位が高い農産物一覧

品目	収穫量(トン)	収穫量(全国)(トン)	全国順位	シェア(%)	年
いちご	25,400	164,000	1位	15.5	H26
二条大麦	35,900	113,000	1位	31.8	H27
かんぴょう	382	388	1位	98.5	H24
陸稲	709	2,700	2位	26.3	H27
にら	11,000	61,400	2位	17.9	H26
こんにゃくいも	1,790	61,300	2位	2.9	H27
青刈りとうもろこし	237,200	4,823,000	2位	4.9	H27

日本なし	20,700	247,300	3位	8.4	H27
六条大麦	5,480	52,700	4位	10.4	H27

出典：農林水産省『作物統計』『特定作物統計調査』『地域特産野菜生産状況』(とちぎの統計情報)

品目	栃木県	全国	全国順位	シェア (%)	年
乳用牛飼育頭数 (頭)	53,500	1,371,000	2位	3.9	H27
生乳生産量 (トン)	317,150	7,334,264	2位	4.3	H26

資料：農林水産省畜産統計(とちぎの統計情報)

品目	出荷量 (千本)	出荷量 (全国) (千本)	全国順位	シェア (%)	年
スプレイぎく (切り花)	21,800	241,700	3位	9.0	H26

資料：農林水産省平成 26 年産花き生産出荷統計(とちぎの統計情報)

V-(1)-2. 栃木の県民所得

図表：栃木県の主要指標

指標名		指標値	順位	全国
1	県民所得	6兆2,532億円	15位	367兆6,303億円
2	一人当たり県民所得	3,101千円	6位	2,878千円
3	労働生産性	6,078千円	7位	6,023千円
4	労働生産性〔製造業〕	9,941千円	—	6,757千円
5	就業者比率	50.8%	12位	48.9%
6	県民分配率	100.4%	38位	103.2%

出典：栃木県『とちぎの統計情報』

図表：一人当たりの県民所得



出典：栃木県『とちぎの統計情報』

図表：各要素上位県

	一人当たり県民所得		労働生産性		就業者比率		県民分配率	
	都道府県名	千円	都道府県名	千円	都道府県名	%	都道府県名	%
1位	東京都	4,778	東京都	8,495	東京都	65.2	埼玉県	138.6
2位	愛知県	3,524	滋賀県	6,698	愛知県	54.7	奈良県	135.6
3位	静岡県	3,344	愛知県	6,570	静岡県	53.9	千葉県	131.2
4位	滋賀県	3,275	大阪府	6,242	岩手県	53.5	神奈川県	128.9
5位	神奈川県	3,204	広島県	6,240	長野県	52.4	兵庫県	113.6
本県	6位	3,101	7位	6,078	12位	50.8	38位	100.4
全国平均	-	2,878	-	6,023	-	48.9	-	103.2

※一人当たり県民所得の全国平均値は、一人当たり国民所得の額を掲載している。

出典：栃木県『とちぎの統計情報』

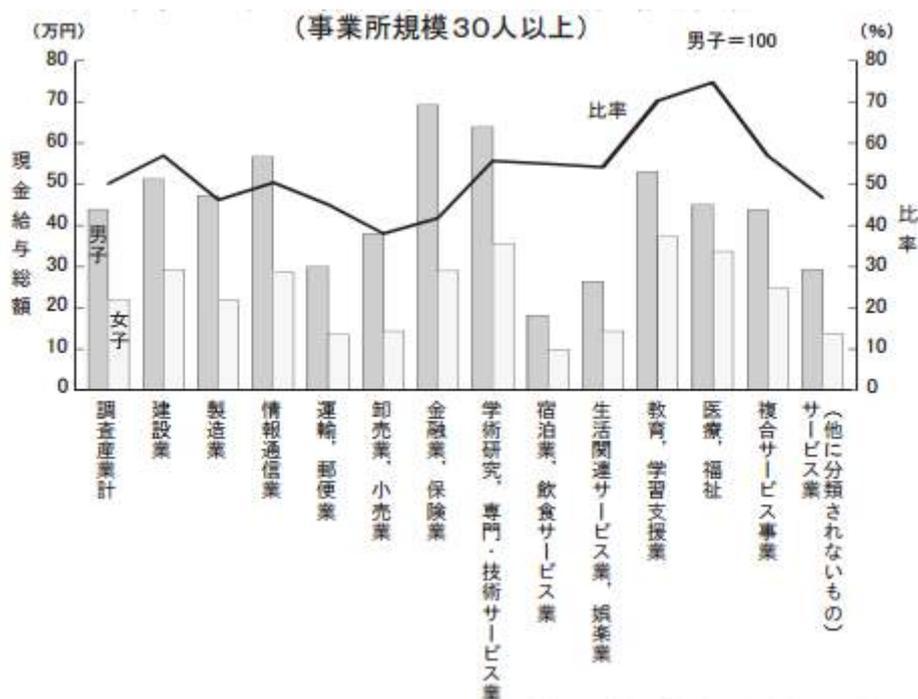
図表：産業別労働生産性

	構成比(%)	本県(a)	全国(b)	a/b
農 林 水 産 業	1.9	1,632	1,618	1.01
鉱 業	0.2	10,181	5,700	1.79
製 造 業	39.4	9,941	6,757	1.47
建 設 業	5.7	4,238	4,353	0.97
電 気・ガ ス・水 道 業	1.4	7,572	12,646	0.60
卸 売・小 売 業	10.4	4,357	5,228	0.83
金 融・保 険 業	5.2	17,293	18,054	0.96
運 輸・通 信 業	3.9	4,254	6,538	0.65
サ ー ビ ス 業	17.9	3,883	3,740	1.04
政 府 等	9.3	6,357	8,518	0.75

※構成比は、県内純生産による。不動産業は、県民経済計算の概念による特別な推計を行っているため除く。

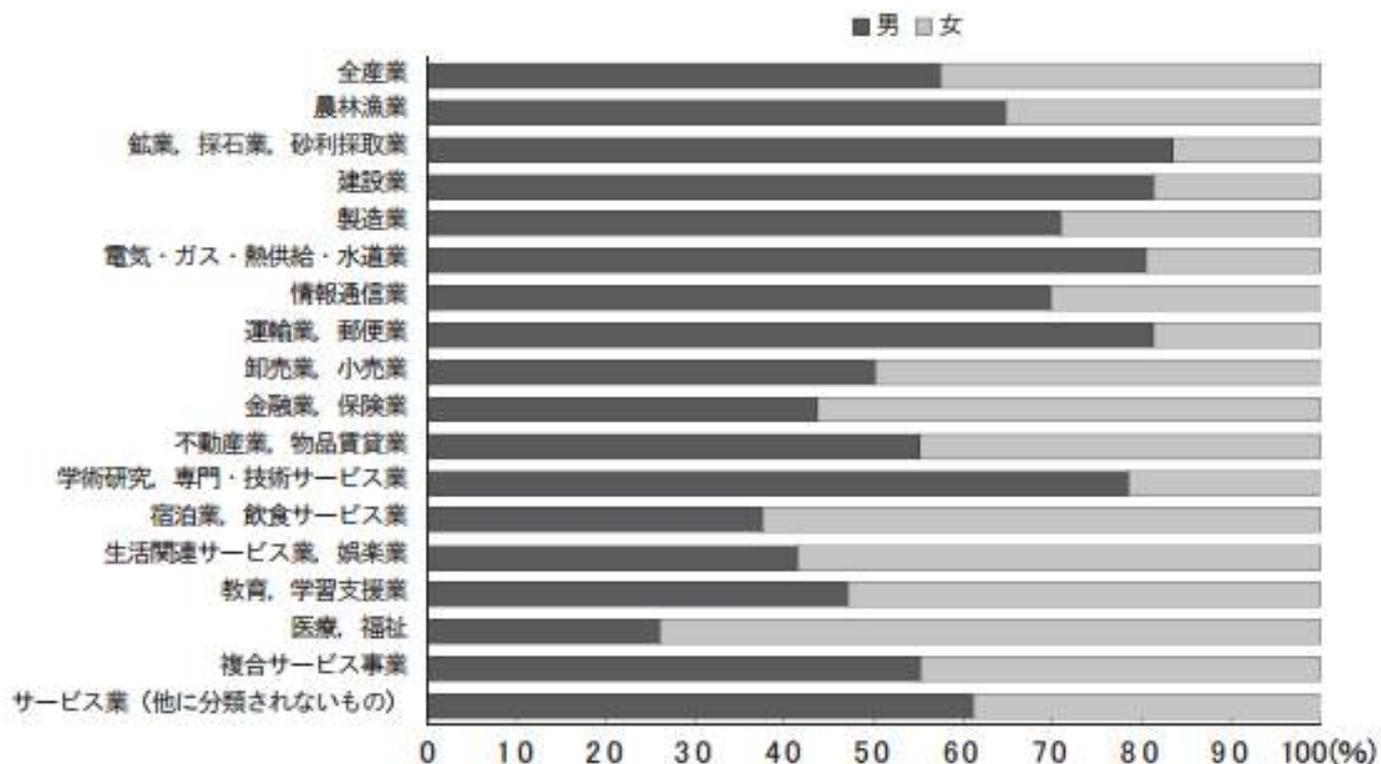
出典：栃木県『とちぎの統計情報』

図表：産業別男女別賃金と比率



出典：栃木県『とちぎの指標：経済と労働』

図表：産業別大分類別従業者の男女比



出典：栃木県『とちぎの指標：経済と労働』

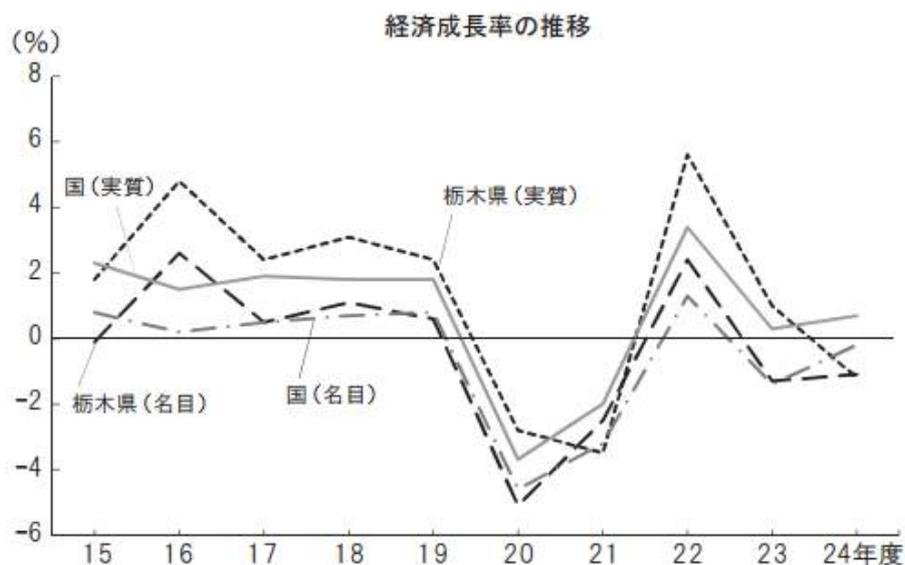
V-(1)-3. 栃木の経済状況

図表：県民経済生産の概要

区分	単位	実数		対前年度増加率(%)		
		24年度	25年度	24年度	25年度	
栃木県	県内総生産(名目)	億円	77,271	82,322	▲ 1.3	6.5
	県内総生産(実質)	億円	85,573	91,022	▲ 1.4	6.4
	県民所得	億円	59,751	64,632	▲ 0.3	8.2
	一人当たり県民所得	千円	3,000	3,255	0.1	8.5
国	国内総生産(名目)	億円	4,744,749	4,831,103	0.1	1.8
	国内総生産(実質)	億円	5,196,318	5,305,915	1.0	2.1
	国民所得	億円	3,519,578	3,620,550	0.7	2.9
	一人当たり国民所得	千円	2,761	2,845	0.9	3.0

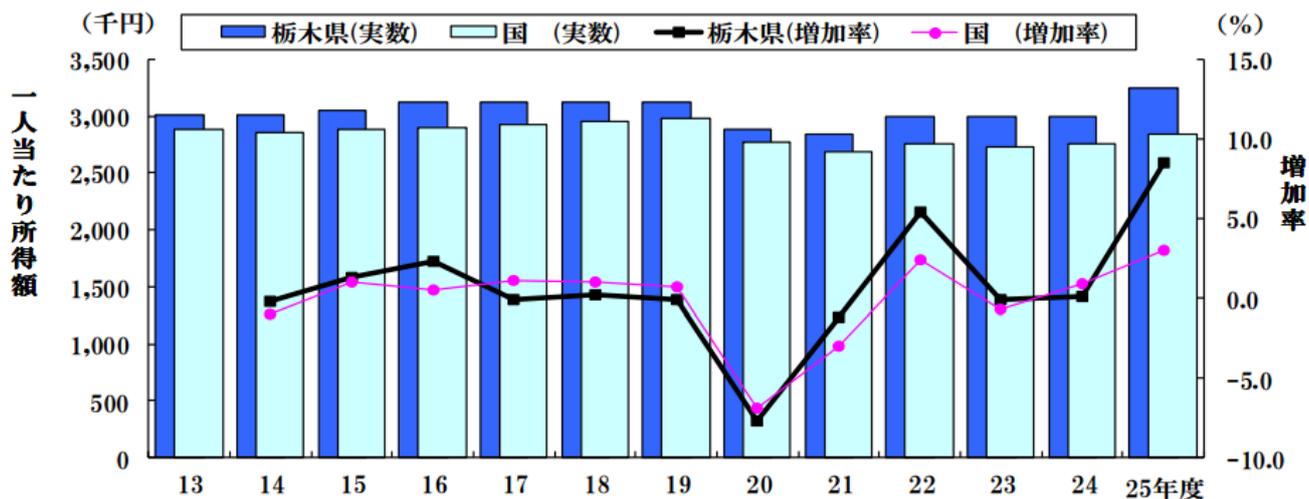
出典：栃木県『県民経済生産』

図表：経済成長率の推移



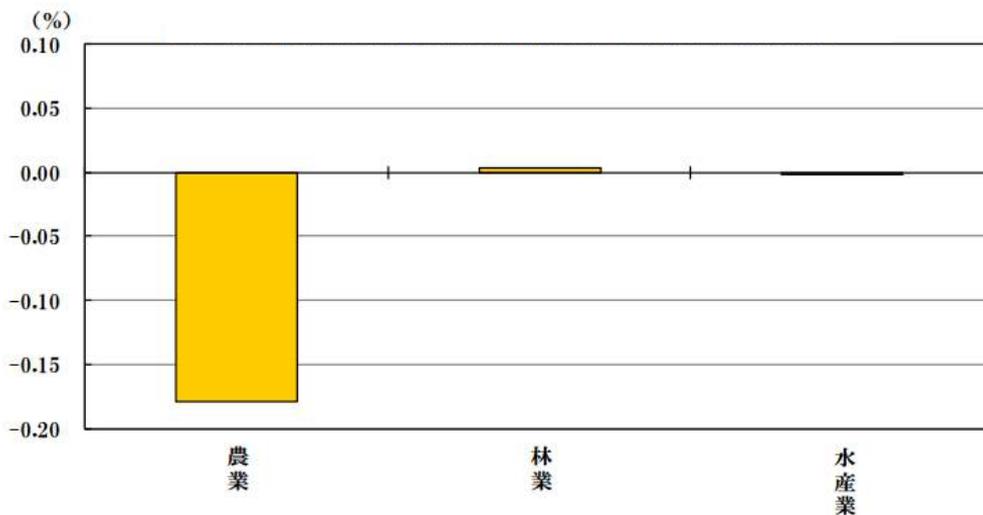
出典：栃木県『とちぎの指標：経済と労働』

図表：1人あたりの県民所得の推移



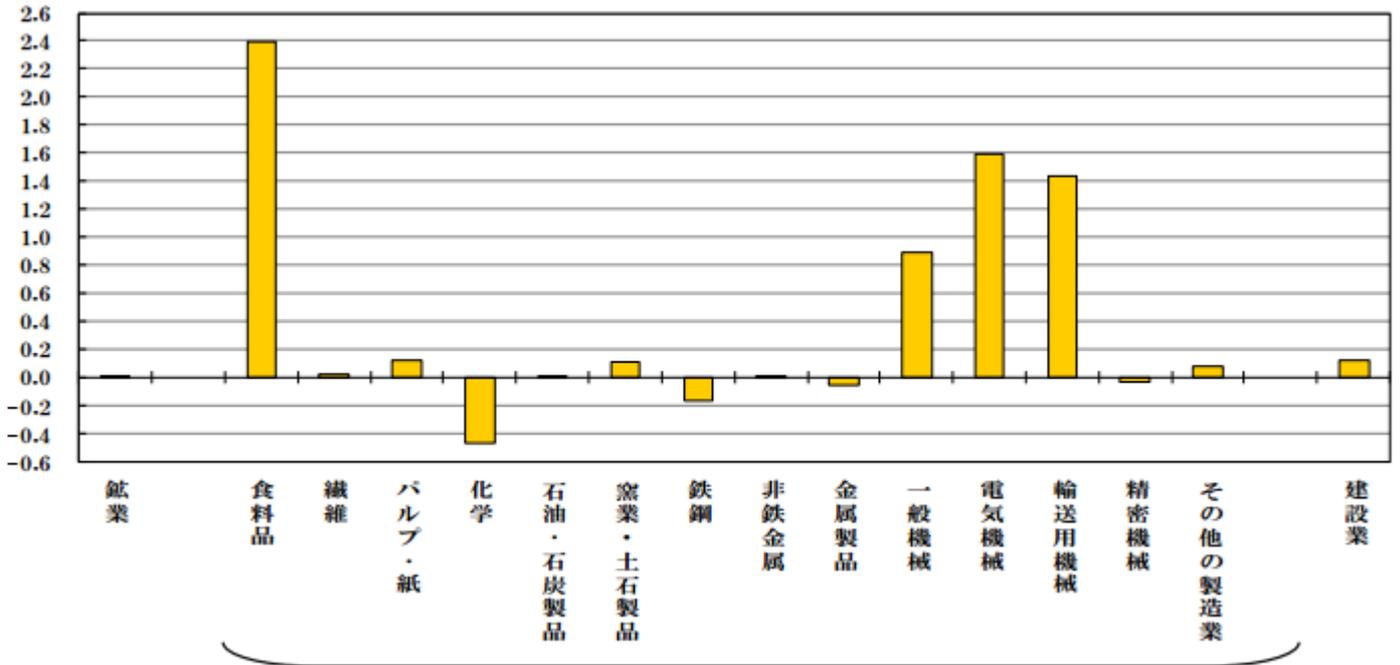
出典：栃木県『県民経済生産』

図表：1次産業の県内総生産



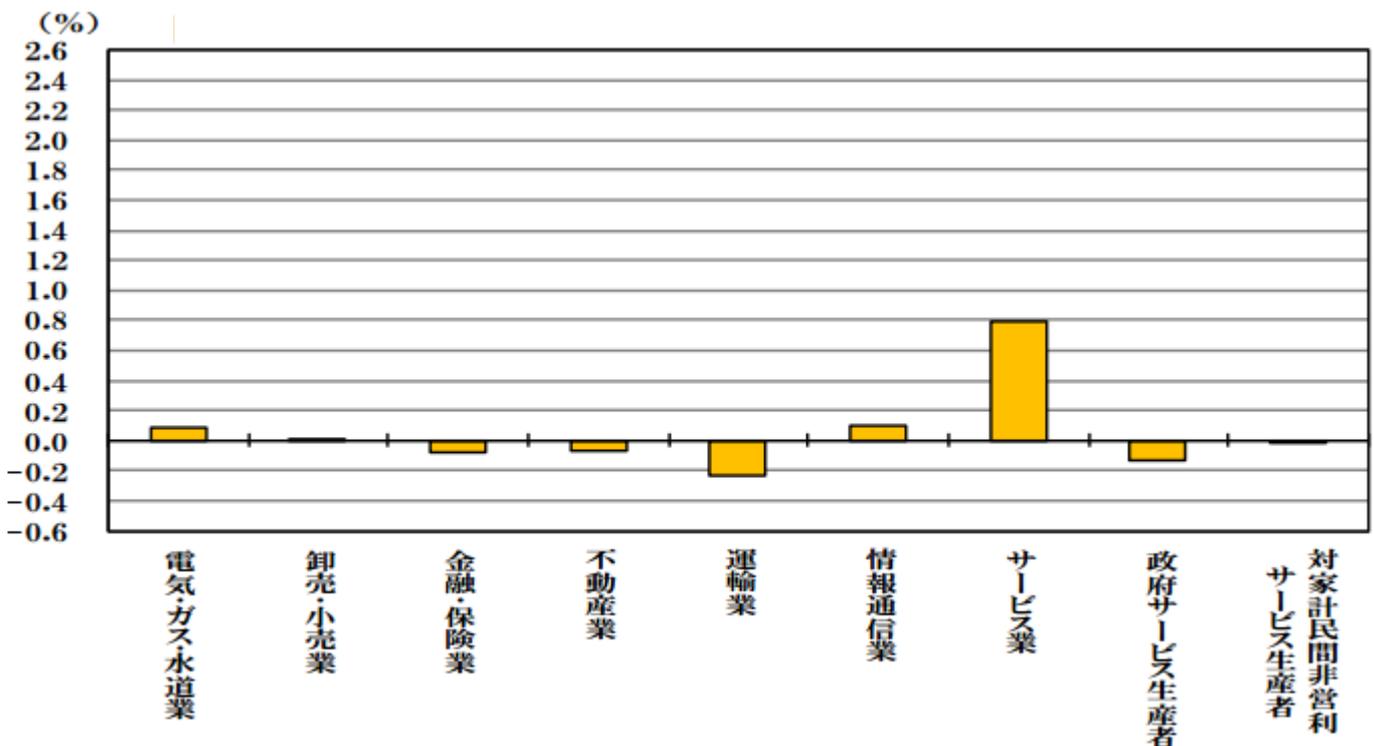
出典：栃木県『県民経済生産』

図表：2次産業の県内総生産



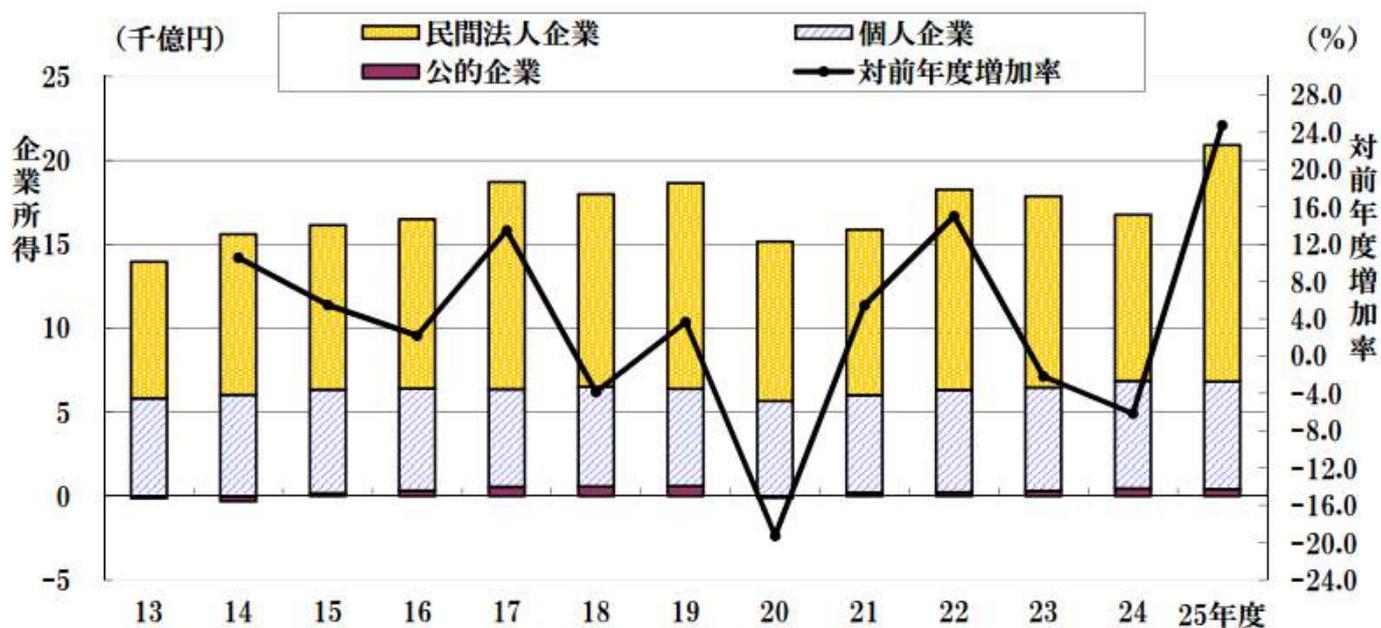
出典：栃木県『県民経済生産』

図表：3次産業の県内総生産



出典：栃木県『県民経済生産』

図表：県内企業の所得の推移



出典：栃木県『県民経済生産』

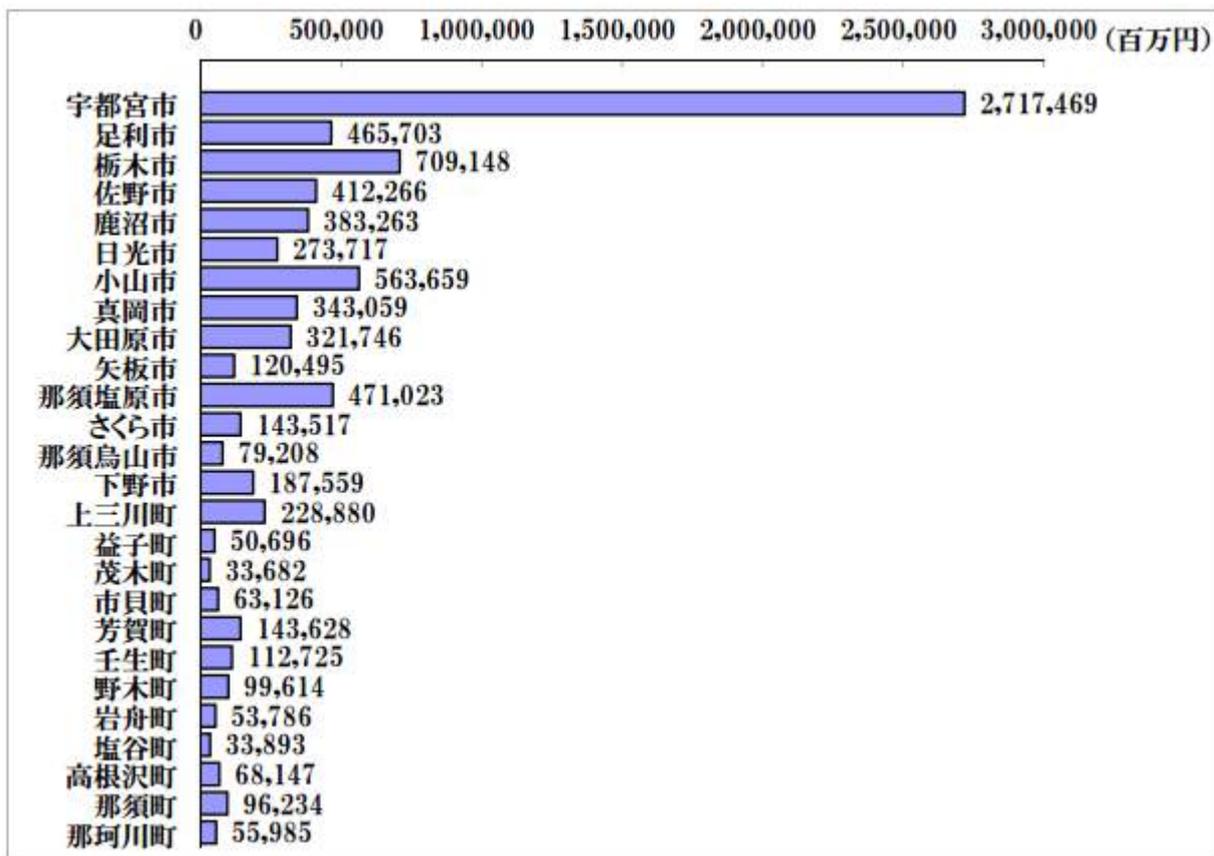
V-(1)-4. 栃木の市長村民経済計算

図表：市町村内装生産額(名目) 対前年度比 構成比

市町村	市町村内総生産額 (名目)			対前年度比 (経済成長率・名目)		構成比	
	24年度	25年度	増減	24年度	25年度	24年度	25年度
栃木県	7,727,105	8,232,227	505,122	▲ 1.3	6.5	100.0	100.0
宇都宮市	2,482,312	2,717,469	235,157	▲ 2.3	9.5	32.1	33.0
足利市	466,988	465,703	▲ 1,285	1.2	▲ 0.3	6.0	5.7
栃木市	658,253	709,148	50,895	3.3	7.7	8.5	8.6
佐野市	408,400	412,266	3,866	▲ 3.9	0.9	5.3	5.0
鹿沼市	348,392	383,263	34,871	▲ 2.7	10.0	4.5	4.7
日光市	268,228	273,717	5,489	▲ 1.0	2.0	3.5	3.3
小山市	564,379	563,659	▲ 720	▲ 7.4	▲ 0.1	7.3	6.8
真岡市	326,215	343,059	16,844	3.6	5.2	4.2	4.2
大田原市	307,134	321,746	14,612	▲ 0.4	4.8	4.0	3.9
矢板市	116,661	120,495	3,834	▲ 5.8	3.3	1.5	1.5
那須塩原市	465,569	471,023	5,454	9.1	1.2	6.0	5.7
さくら市	144,606	143,517	▲ 1,088	1.9	▲ 0.8	1.9	1.7
那須烏山市	81,406	79,208	▲ 2,198	▲ 3.3	▲ 2.7	1.1	1.0
下野市	179,445	187,559	8,114	4.2	4.5	2.3	2.3
上三川町	144,441	228,880	84,439	▲ 24.8	58.5	1.9	2.8
益子町	51,830	50,696	▲ 1,134	4.7	▲ 2.2	0.7	0.6
茂木町	33,061	33,682	621	▲ 1.3	1.9	0.4	0.4
市貝町	56,589	63,126	6,537	23.6	11.6	0.7	0.8
芳賀町	118,003	143,628	25,625	▲ 3.7	21.7	1.5	1.7
壬生町	114,656	112,725	▲ 1,930	▲ 0.0	▲ 1.7	1.5	1.4
野木町	92,162	99,614	7,451	6.3	8.1	1.2	1.2
岩舟町	51,978	53,786	1,808	4.3	3.5	0.7	0.7
塩谷町	29,411	33,893	4,481	▲ 7.8	15.2	0.4	0.4
高根沢町	66,962	68,147	1,184	▲ 3.8	1.8	0.9	0.8
那須町	93,551	96,234	2,683	▲ 2.4	2.9	1.2	1.2
那珂川町	56,473	55,985	▲ 489	▲ 5.7	▲ 0.9	0.7	0.7

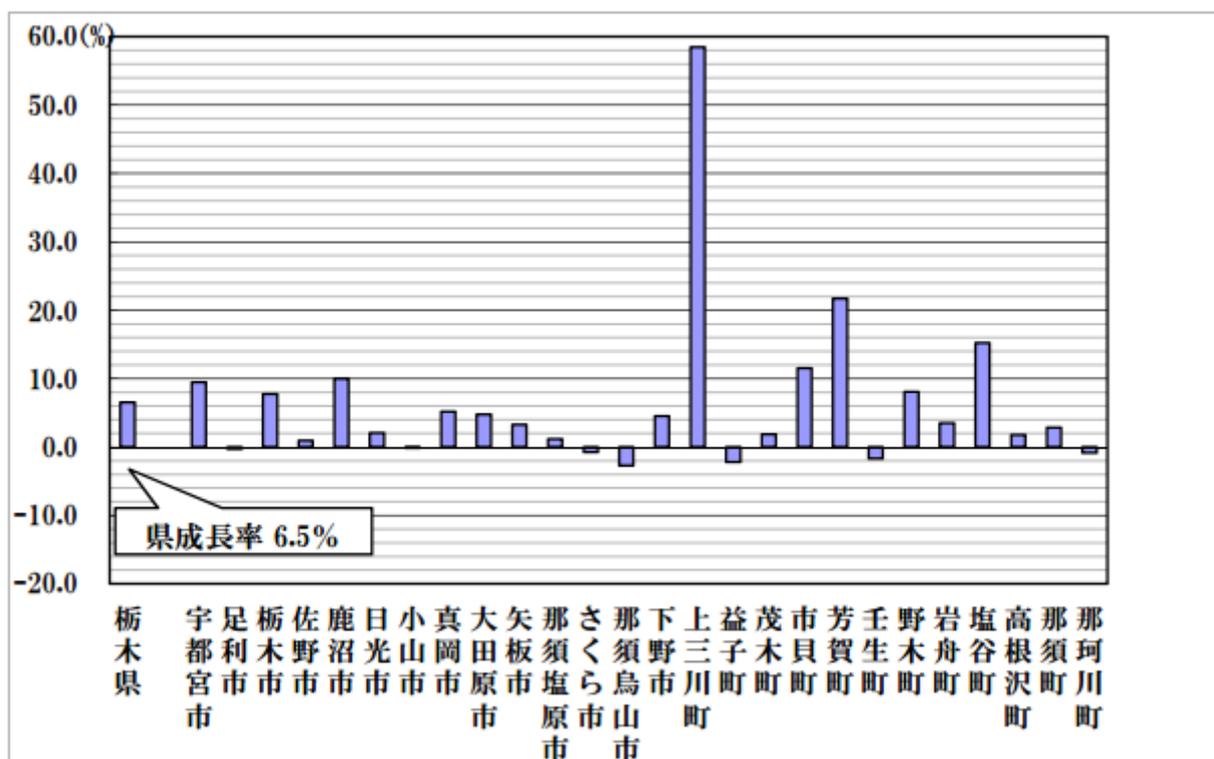
出典：栃木県『平成 25 年度 とちぎの市町村民経済計算(概要)』

図表：市町村内総生産額



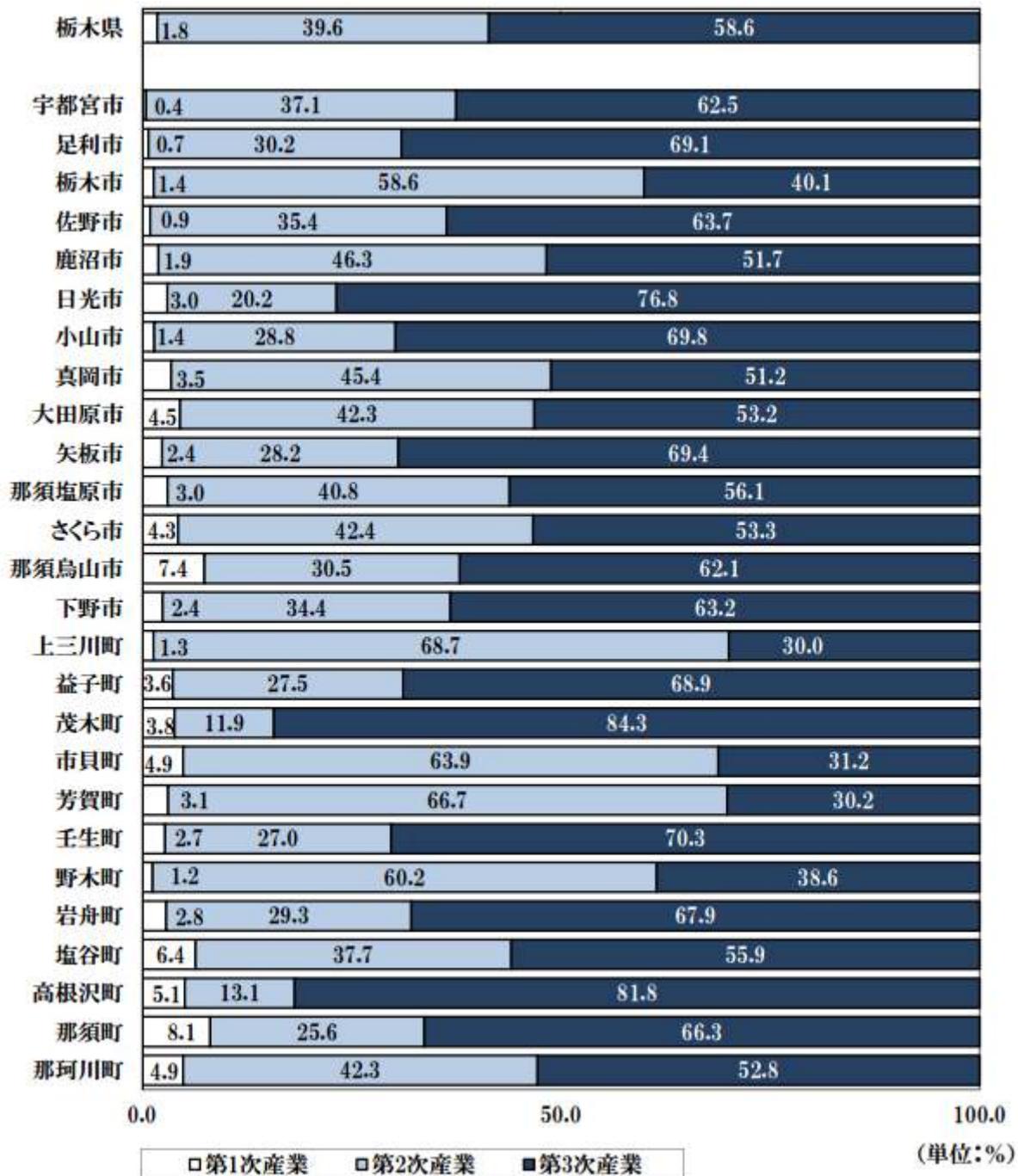
出典：栃木県『平成 25 年度 とちぎの市町村民経済計算(概要)』

図表：経済成長率(対前年度比)



出典：栃木県『平成 25 年度 とちぎの市町村民経済計算(概要)』

図表：市町村別産業構成



出典：栃木県『平成 25 年度 とちぎの市町村民経済計算(概要)』

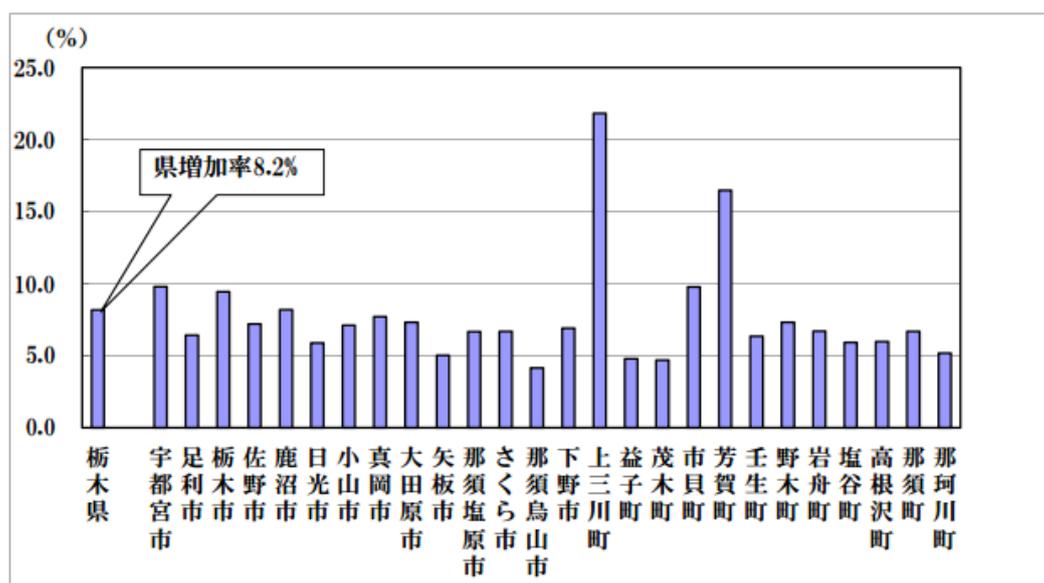
図表：市町村村民所得額 対前年度比 構成比

(単位:百万円、%)

市町村	市町村村民所得額			対前年度比		構成比	
	24年度	25年度	増減	24年度	25年度	24年度	25年度
栃木県	5,975,074	6,463,154	488,080	▲ 0.3	8.2	100.0	100.0
宇都宮市	1,709,596	1,876,795	167,199	▲ 0.5	9.8	28.6	29.0
足利市	416,876	443,652	26,776	▲ 0.1	6.4	7.0	6.9
栃木市	429,905	470,432	40,527	▲ 0.1	9.4	7.2	7.3
佐野市	338,228	362,595	24,367	▲ 0.9	7.2	5.7	5.6
鹿沼市	291,228	315,085	23,856	▲ 0.3	8.2	4.9	4.9
日光市	238,285	252,285	14,000	▲ 0.4	5.9	4.0	3.9
小山市	492,330	527,356	35,025	▲ 0.5	7.1	8.2	8.2
真岡市	239,036	257,424	18,388	0.3	7.7	4.0	4.0
大田原市	218,308	234,255	15,947	0.0	7.3	3.7	3.6
矢板市	93,850	98,553	4,703	▲ 3.0	5.0	1.6	1.5
那須塩原市	349,670	372,963	23,293	1.4	6.7	5.9	5.8
さくら市	127,034	135,515	8,481	0.6	6.7	2.1	2.1
那須烏山市	75,543	78,679	3,136	▲ 1.1	4.2	1.3	1.2
下野市	186,429	199,279	12,851	1.5	6.9	3.1	3.1
上三川町	99,333	120,999	21,666	▲ 8.0	21.8	1.7	1.9
益子町	62,741	65,735	2,994	1.9	4.8	1.1	1.0
茂木町	35,512	37,174	1,662	▲ 0.8	4.7	0.6	0.6
市貝町	38,446	42,204	3,758	3.9	9.8	0.6	0.7
芳賀町	54,558	63,547	8,990	▲ 3.1	16.5	0.9	1.0
壬生町	112,053	119,155	7,102	1.4	6.3	1.9	1.8
野木町	77,593	83,266	5,672	▲ 0.3	7.3	1.3	1.3
岩舟町	49,981	53,327	3,346	0.8	6.7	0.8	0.8
塩谷町	31,873	33,760	1,887	▲ 1.0	5.9	0.5	0.5
高根沢町	89,892	95,263	5,370	1.1	6.0	1.5	1.5
那須町	69,511	74,154	4,643	0.4	6.7	1.2	1.1
那珂川町	47,263	49,702	2,439	▲ 1.5	5.2	0.8	0.8

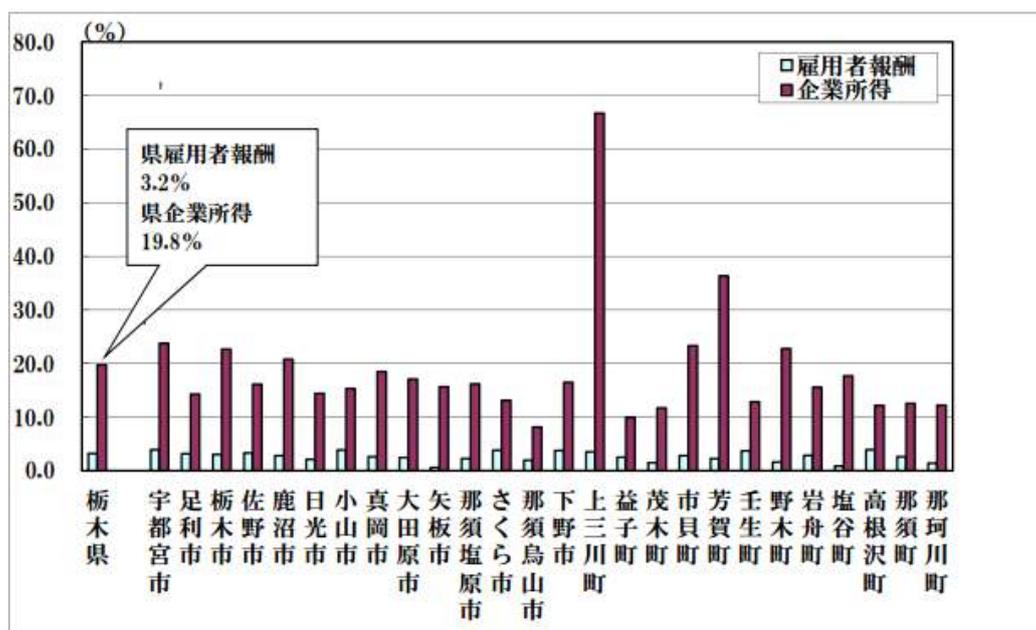
出典：栃木県『平成 25 年度 とちぎの市町村村民経済計算(概要)』

図表：市町村村民所得対前年度比



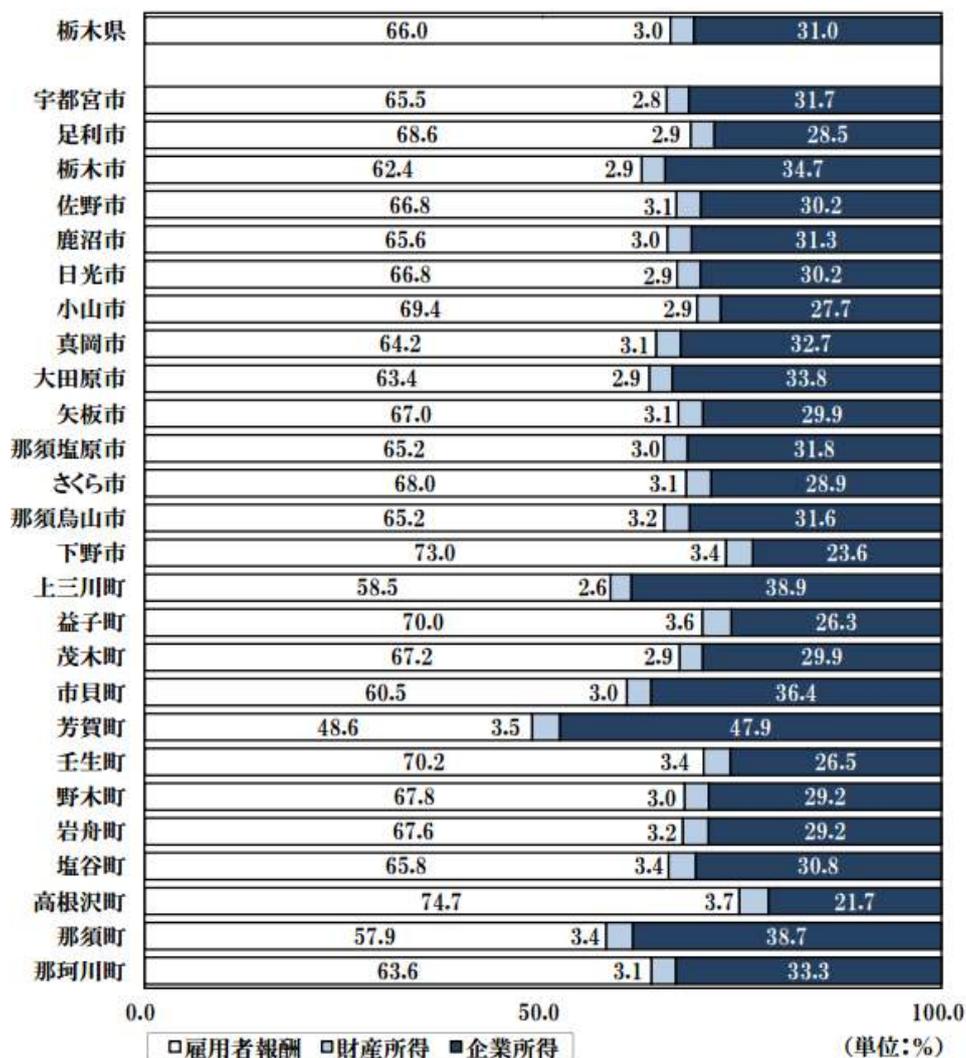
出典：栃木県『平成 25 年度 とちぎの市町村村民経済計算(概要)』

図表：雇用者報酬・企業所得の対前年度比



出典：栃木県『平成 25 年度 とちぎの市町村村民経済計算(概要)』

図表：所得の構成



出典：栃木県『平成 25 年度 とちぎの市町村村民経済計算(概要)』

【作成/監修】

〒324-0054

栃木県大田原市若松町 505-1 柴田若松コーポ 103 号

株式会社ネオクラシック

中小企業診断士 柴田 幸紀